

**伊賀市子ども・子育て支援に関する  
アンケート調査報告書  
【概要版】**

**2019（平成31）年3月  
伊賀市**

# 目 次

<b>I. 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の目的 .....	1
2. 調査方法・回収結果 .....	1
3. 報告書の見方 .....	1
<b>II. 調査結果</b> .....	<b>2</b>
1. 回答者の属性 .....	2
2. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について.....	8
3. 放課後の過ごし方について .....	16
4. 子育て全般について .....	24
<b>III. 生活困窮の状況</b> .....	<b>34</b>
1. 本調査における「生活困難層」の推定について.....	34
2. 「生活困難層」について .....	35
3. 生活困難層の割合 .....	35
4. 生活困難層の現状 .....	36

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

伊賀市では、平成 27 年 4 月から子ども・子育て支援新制度が施行されたことに伴い、「伊賀市子ども・子育て支援事業計画」（平成 27 年度～平成 31 年度）を策定し、様々な子育て支援施策を実施してきました。

平成 32 年度からの次期計画の策定に向けて、本市における教育・保育事業や子育て支援事業の利用状況や希望を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

## 2. 調査方法・回収結果

	就学前児童	小学生	中学生
調査地域	市内全域	市内全域	市内全域
調査対象	市内在住の就学前のお子さんの保護者 2,500 人	市内在住の小学生の保護者 3,380 人	市内在住の中学生の保護者 2,026 人
抽出方法	住民基本台帳より 無作為抽出	全数を対象	全数を対象
調査方法	郵送による配布、回収	学校を通じて直接配布・回収	学校を通じて直接配布・回収
調査期間	平成 30 年 12 月 3 日～ 平成 31 年 1 月 4 日	平成 30 年 12 月 ～平成 31 年 1 月	平成 30 年 12 月 ～平成 31 年 1 月
有効回答数	1,172 件	2,825 件	1,759 件
回収率	46.9%	83.6%	86.8%

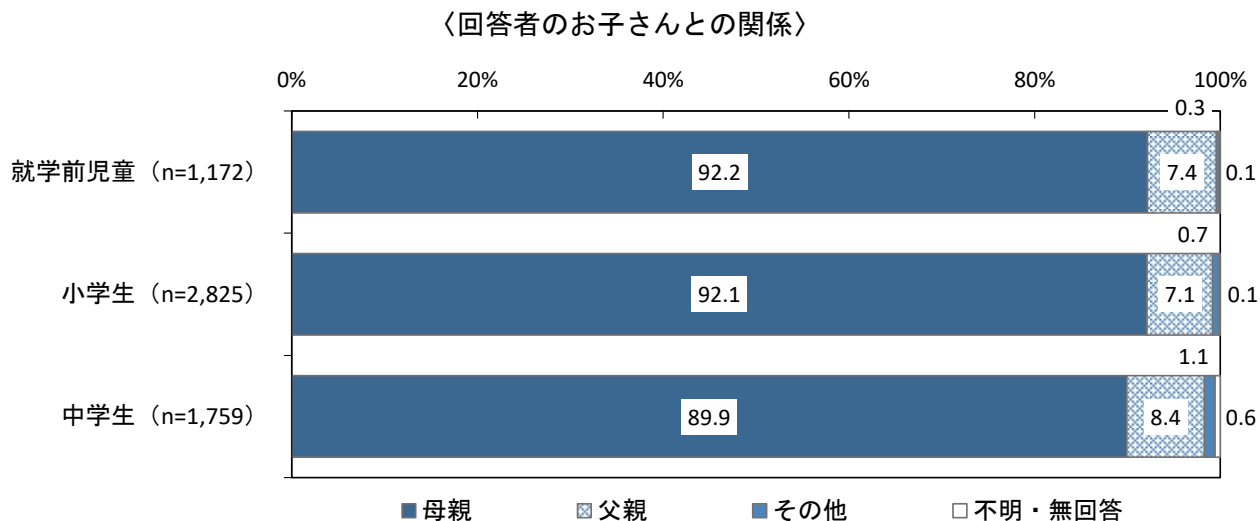
## 3. 報告書の見方

- (1) 集計は小数第 2 位を四捨五入して算出しています。したがって、回答率を合計しても 100%にならない場合があります。
- (2) 回答の比率 (%) は、その設問の回答者数を基数 n として算出しています。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると 100%を超えることがあります。
- (3) 「前回調査」とは、平成 25 年 10 月に実施の「伊賀市子ども・子育てに関するアンケート調査」を示しています。また、小学生の前回調査との比較については、前回調査の対象者が小学生（1～3年生）の保護者であったため、注意が必要です。

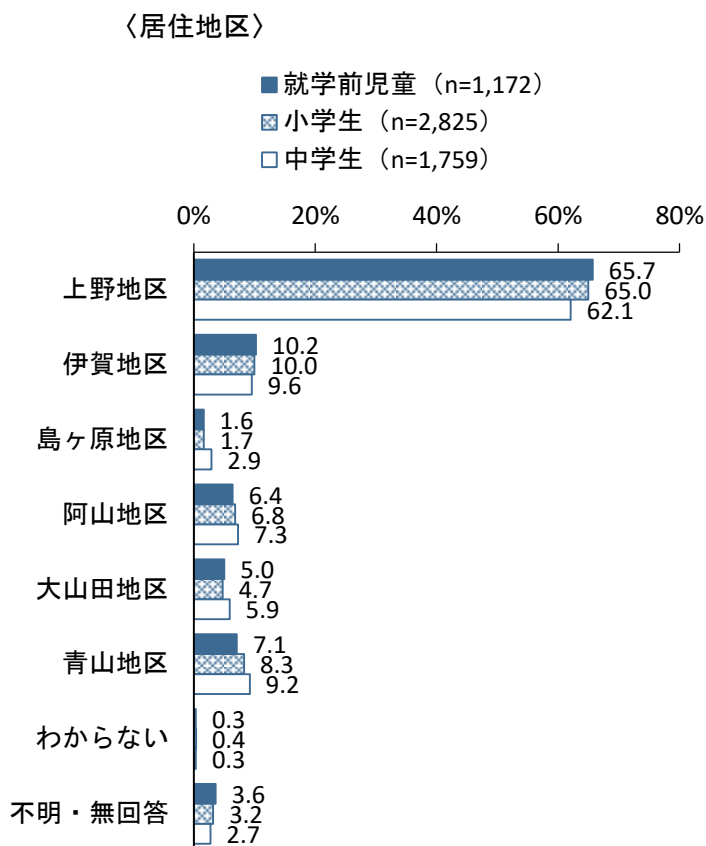
## Ⅱ. 調査結果

### 1. 回答者の属性

#### (1) 回答者のお子さんとの関係

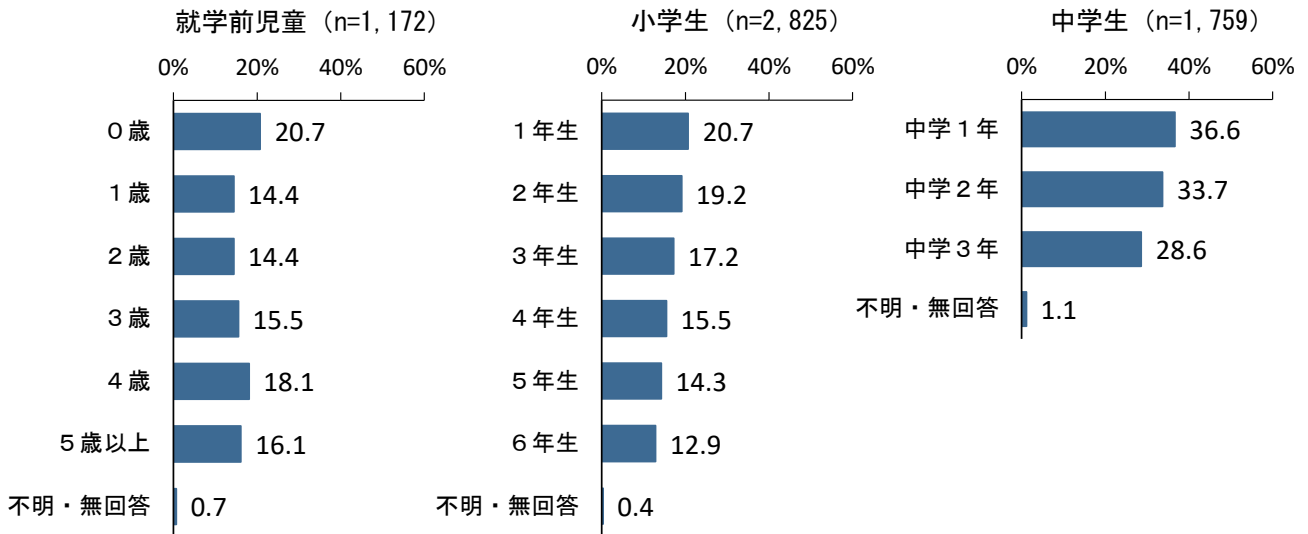


#### (2) 居住地区



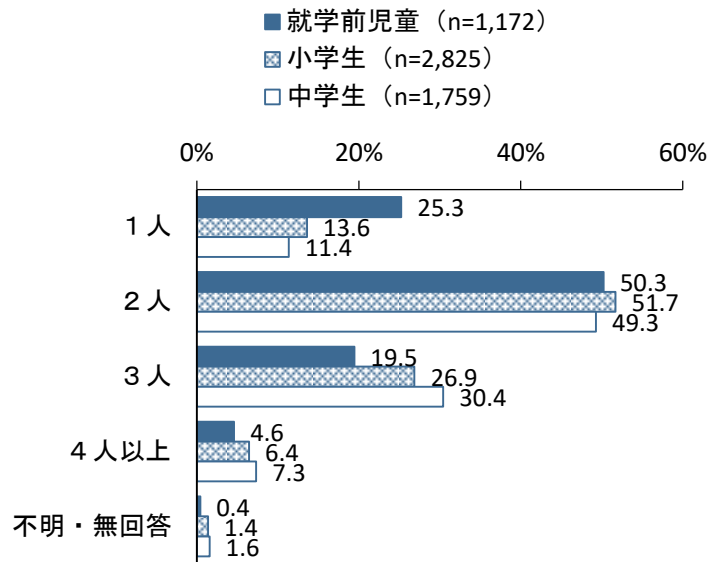
### (3) お子さんの年齢

〈お子さんの年齢〉



### (4) きょうだいの人数

〈きょうだいの人数〉



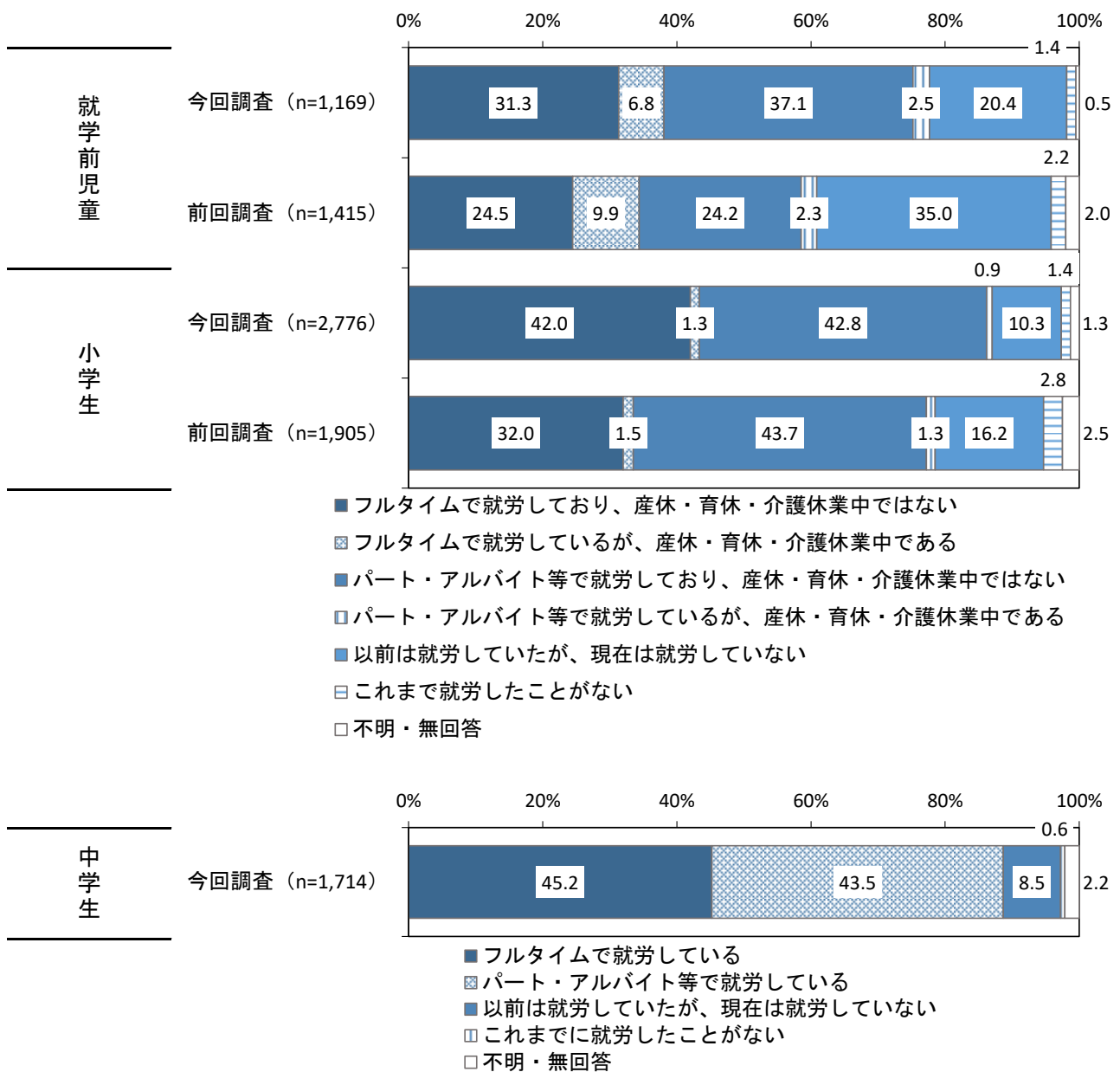
## (5) 母親の就労状況について

### ① 母親の就労状況

母親の就労状況について、前回調査と比較すると、就学前児童では、就労していない人（「以前は就労していたが、現在は就労していない」と「これまで就労したことがない」の合計）の割合が前回調査より減少し、フルタイムで就労している人（「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」と「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」の合計）、パート・アルバイト等で就労している人（「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」と「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」の合計）の割合がそれぞれ前回調査より増加しています。

また、小学生では、就労していない人の割合が前回調査より減少し、フルタイムで就労している人の割合が増加しています。

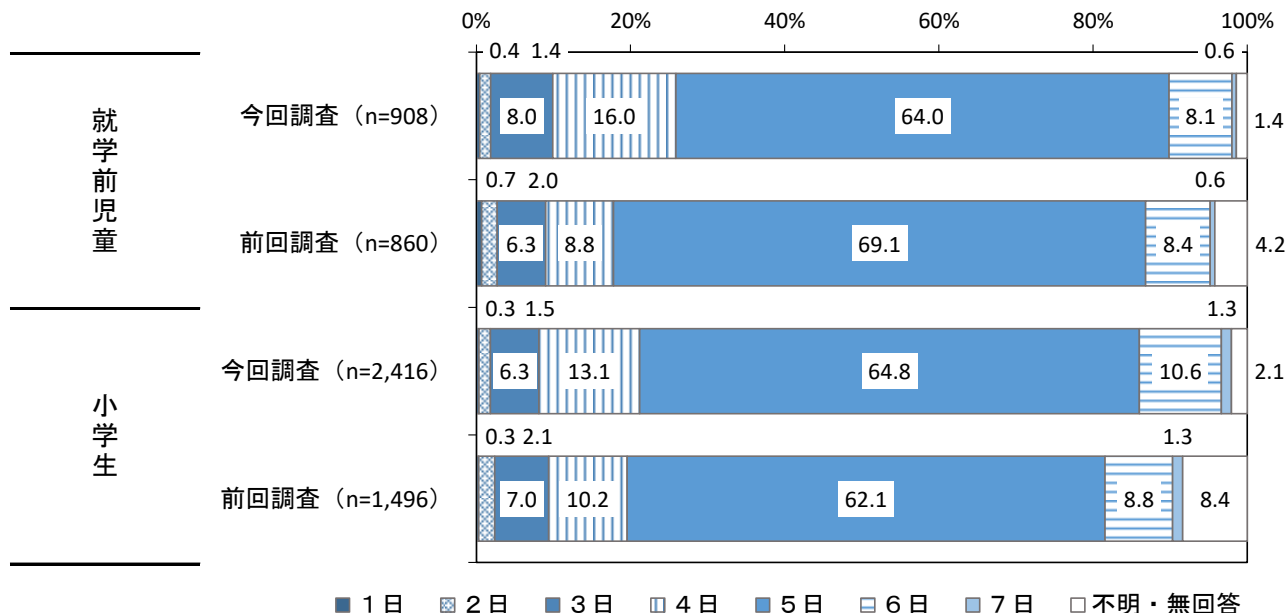
〈母親の就労状況〉



### ②母親の就労日数（就学前児童・小学生）

母親の週当たりの就労日数については、就学前児童、小学生いずれも「5日」の割合が最も高くなっています。

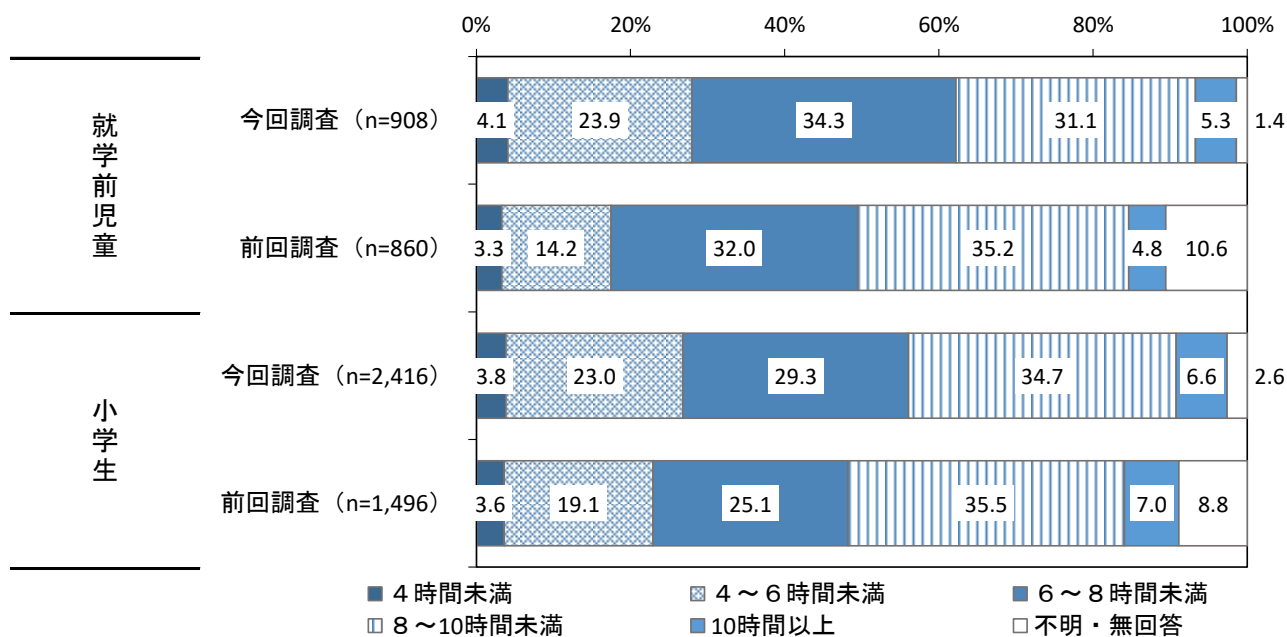
〈母親の就労日数（就学前児童・小学生）〉



### ③母親の就労時間（就学前児童・小学生）

母親の1日当たりの就労時間については、就学前児童では「6～8時間未満」が34.3%で最も高く、小学生では「8～10時間未満」が34.7%で最も高くなっています。

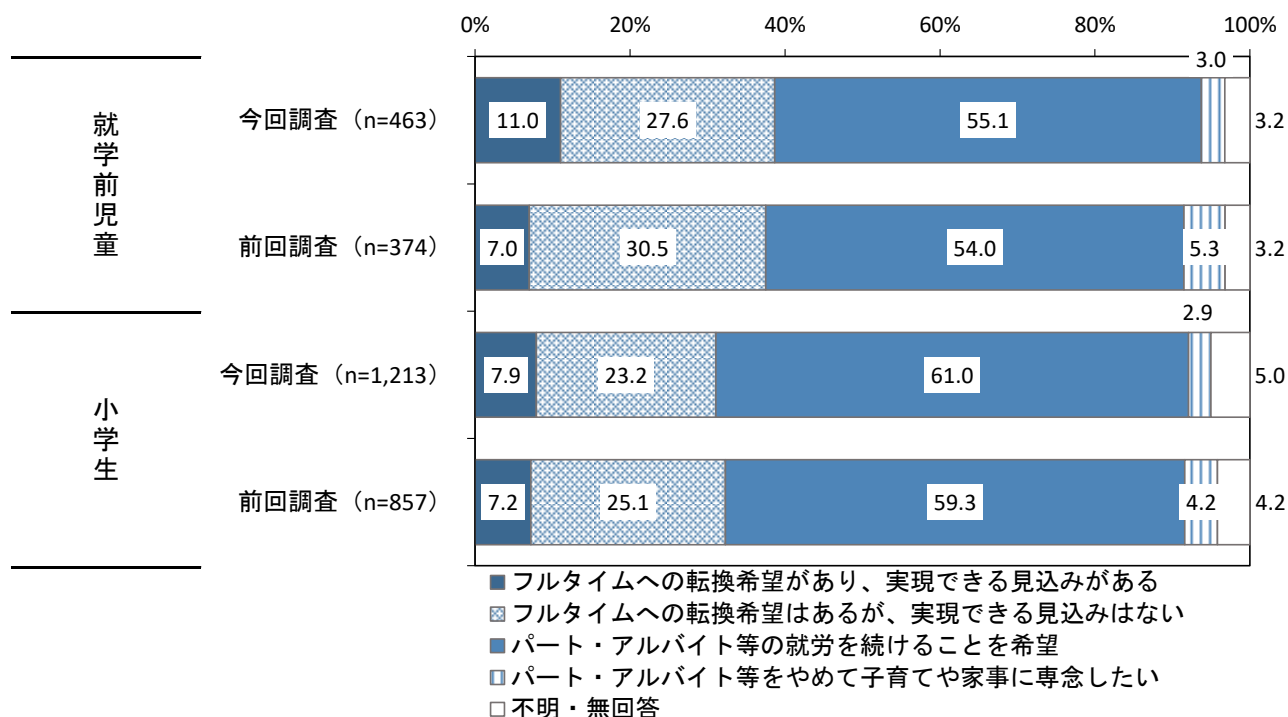
〈母親の就労時間（就学前児童・小学生）〉



#### ④パート・アルバイト就労の方のフルタイムへの転換希望（就学前児童・小学生）

パート・アルバイト就労の方のフルタイムへの転換希望については、就学前児童、小学生いずれも「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が最も高くなっています。

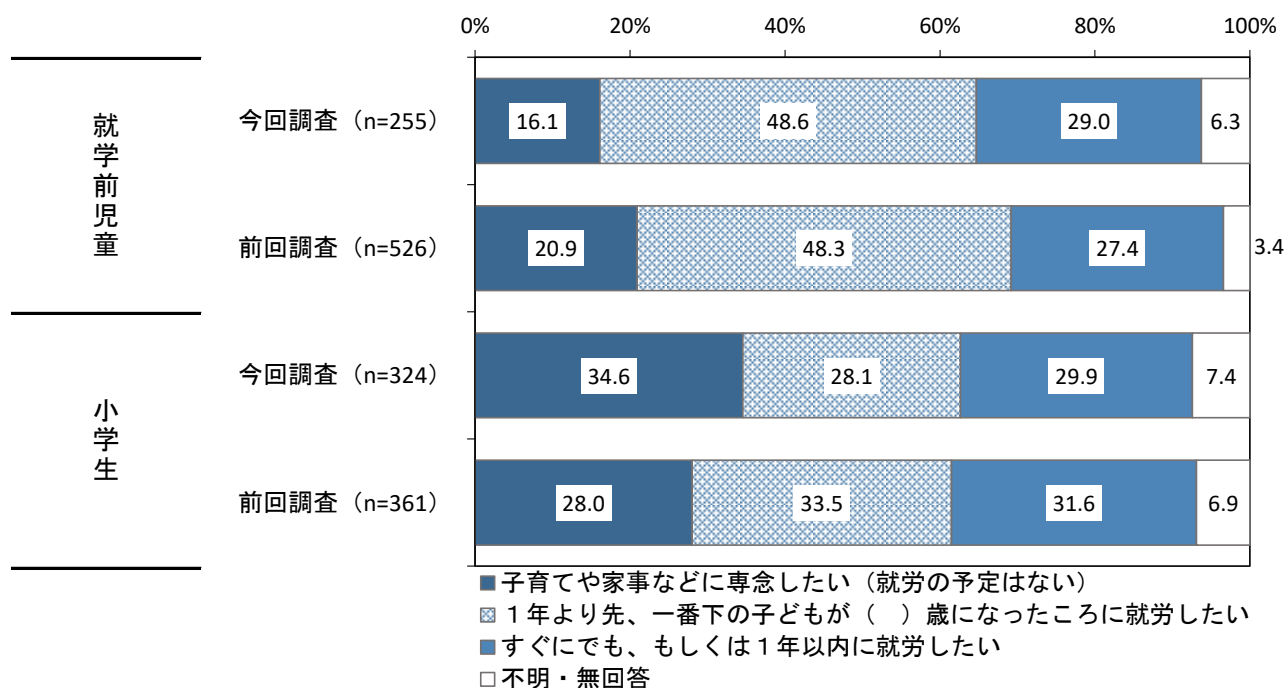
〈パート・アルバイト就労の方のフルタイムへの転換希望（就学前児童・小学生）〉



#### ⑤現在就労していない方の就労希望（就学前児童・小学生）

現在就労していない方の就労希望については、就学前児童では「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」が48.6%で最も高く、小学生では「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が34.6%で最も高くなっています。

〈現在就労していない方の就労希望（就学前児童・小学生）〉

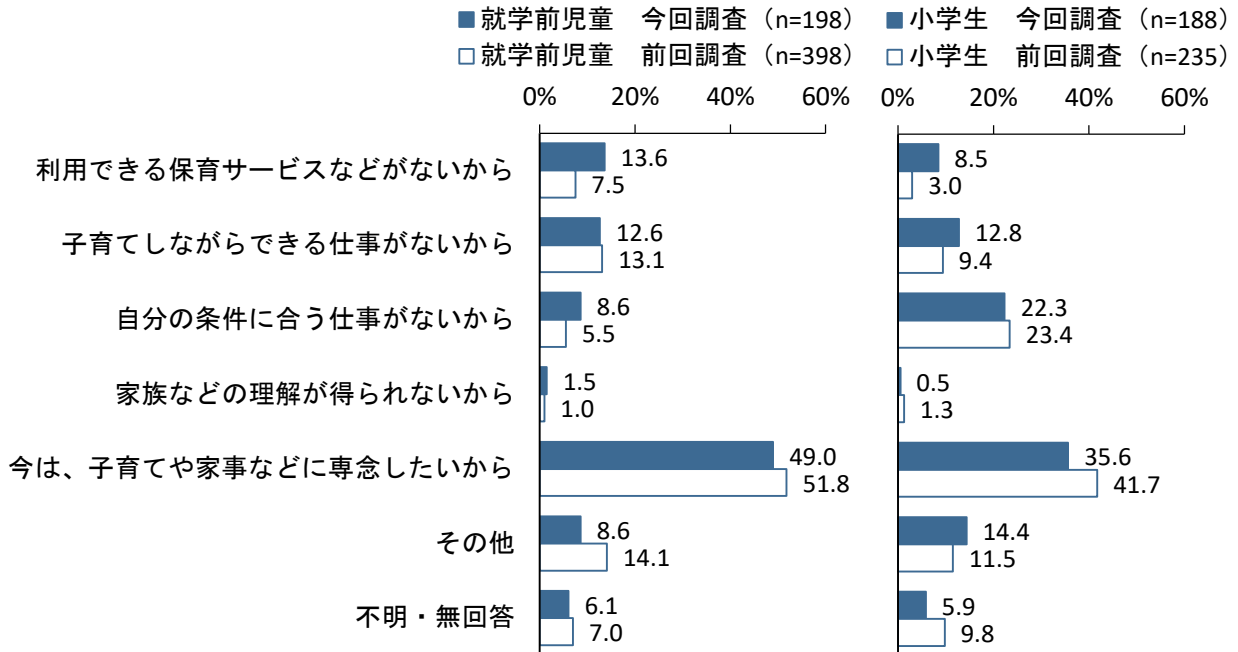




⑥就労希望がありながら現在働いていない理由（就学前児童・小学生）

就労希望がありながら現在働いていない理由については、就学前児童、小学生いずれも「今は、子育てや家事などに専念したいから」の割合が最も高くなっています。

〈就労希望がありながら現在働いていない理由（就学前児童・小学生）〉



## 2. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

### (1) 定期的な教育・保育の事業の利用状況（就学前児童）

問 宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育所（園）などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。（どちらかに○）

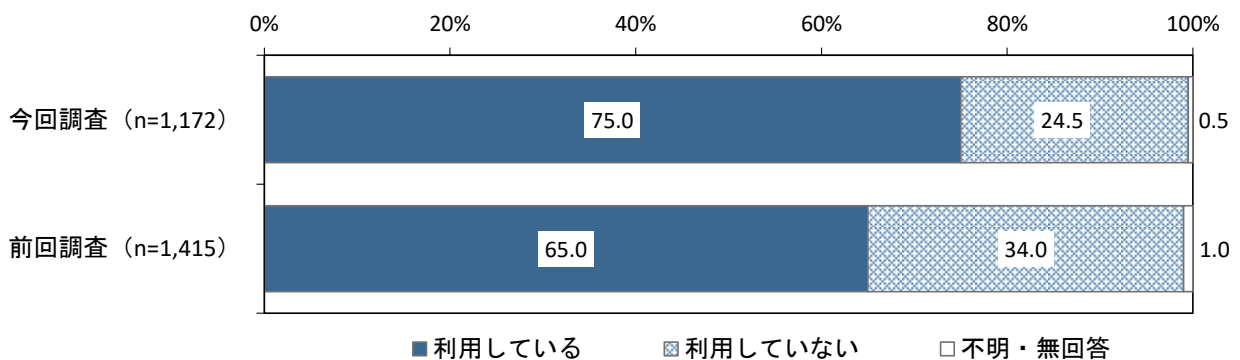
定期的な教育・保育の事業の利用状況については、「利用している」が75.0%、「利用していない」が24.5%となっています。

年齢別にみると、「利用している」は、0歳では28.8%、1歳では60.5%、2歳で79.9%、3歳以上では9割以上となっています。

前回調査と比較すると、「利用している」は、全体では前回調査（65.0%）より10.0ポイント増加しています。

年齢別でみると、「利用している」は、0～3歳で前回調査よりも増加しており、0歳では15.1ポイント、1歳では26.2ポイント、2歳では25.9ポイント、3歳では1.9ポイントそれぞれ増加しています。

〈定期的な教育・保育の事業の利用状況（就学前児童）〉



〈定期的な教育・保育の事業の利用状況【年齢別】（就学前児童）〉

上段：実数（人）、下段：構成比（%）

年齢	調査	全体	利用している	利用していない
		実数 (人)	実数 (人)	構成比 (%)
0歳	今回調査	240	69	171
	前回調査	284	39	245
1歳	今回調査	167	101	66
	前回調査	181	62	119
2歳	今回調査	169	135	34
	前回調査	200	108	92
3歳	今回調査	182	171	11
	前回調査	215	198	17
4歳	今回調査	211	209	2
	前回調査	232	231	1
5歳	今回調査	189	188	1
	前回調査	278	276	2

※網掛け■は最も割合が高いもの

## (2) 平日の昼間、定期的にご利用している教育・保育事業（就学前児童）

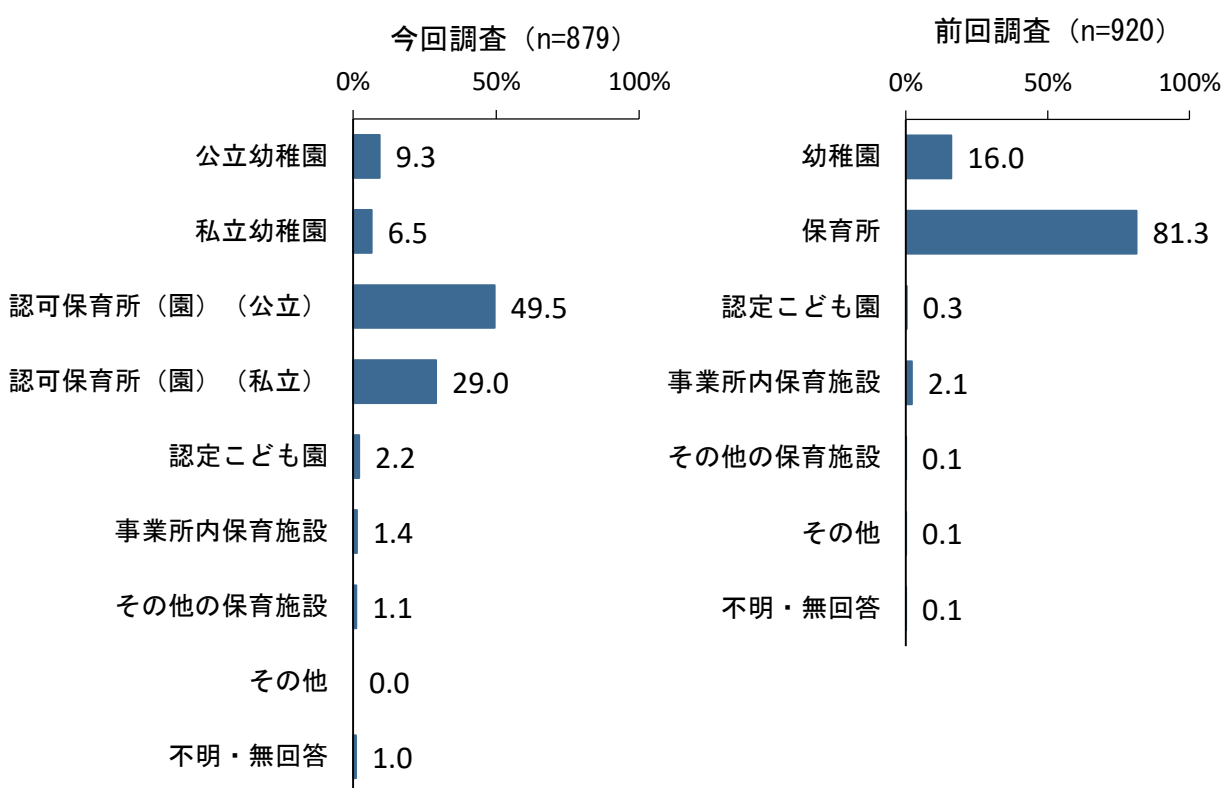
問 【定期的な教育・保育の事業を利用している方】

宛名のお子さんは、平日の昼間、主にどのような教育・保育の事業を利用していますか。  
年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。（○はひとつ）

平日の昼間、定期的にご利用している教育・保育事業については、「認可保育所（園）（公立）」が49.5%で最も高く、次いで「認可保育所（園）（私立）」が29.0%、「公立幼稚園」が9.3%と続いており、『認可保育所（園）』（「認可保育所（園）（公立）」と「認可保育所（園）（私立）」の合計）は78.5%、『幼稚園』（「公立幼稚園」と「私立幼稚園」の合計）は15.8%となっています。

年齢別にみると、『認可保育所（園）』では、2歳が85.1%で最も高く、『幼稚園』では、4歳が20.3%で最も高く、「認定こども園」では、4歳が5.3%で最も高く、「事業所内保育施設」では、1歳が4.0%で最も高く、「その他の保育施設」では、0歳が6.1%で最も高くなっています。

〈平日の昼間、定期的にご利用している教育・保育事業（就学前児童）〉



〈平日の昼間、定期的にご利用している教育・保育事業【年齢別】（就学前児童）〉

上段：実数（人）、下段：構成比（％）

		全体	公立 幼稚園	私立 幼稚園	認可保育 所（園） （公立）	認可保育 所（園） （私立）	認定 こども園	事業所内 保育施設	その他の 保育施設	その他
0歳	今回調査	66 100.0	3 4.5	2 3.0	26 39.4	28 42.4	1 1.5	2 3.0	4 6.1	-
	前回調査	39 100.0	-	-	-	34 87.2	-	5 12.8	-	-
1歳	今回調査	101 100.0	9 8.9	3 3.0	54 53.5	30 29.7	-	4 4.0	1 1.0	-
	前回調査	62 100.0	-	-	-	55 88.7	-	6 9.7	-	1 1.6
2歳	今回調査	134 100.0	5 3.7	9 6.7	65 48.5	49 36.6	1 0.7	3 2.2	2 1.5	-
	前回調査	108 100.0	-	5 4.6	-	97 89.8	1 0.9	5 4.6	-	-
3歳	今回調査	170 100.0	17 10.0	13 7.6	93 54.7	41 24.1	4 2.4	1 0.6	1 0.6	-
	前回調査	198 100.0	-	29 14.6	-	166 83.8	1 0.5	2 1.0	-	-
4歳	今回調査	207 100.0	28 13.5	14 6.8	94 45.4	56 27.1	11 5.3	2 1.0	2 1.0	-
	前回調査	230 100.0	-	48 20.9	-	180 78.3	1 0.4	-	1 0.4	-
5歳	今回調査	186 100.0	20 10.8	15 8.1	98 52.7	51 27.4	2 1.1	-	-	-
	前回調査	276 100.0	-	65 23.6	-	210 76.1	-	1 0.4	-	-

※網掛け■は最も割合が高いもの

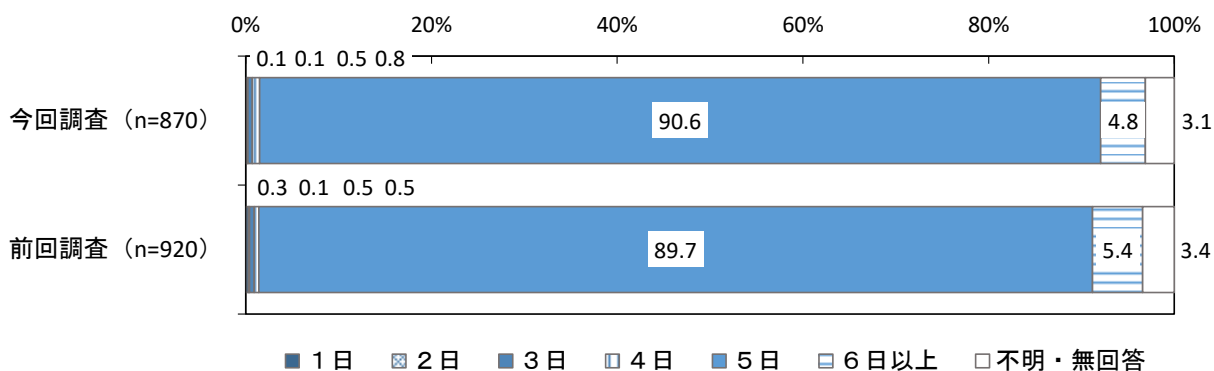
（3）1週当たりの利用日数・1日当たりの利用時間（就学前児童）

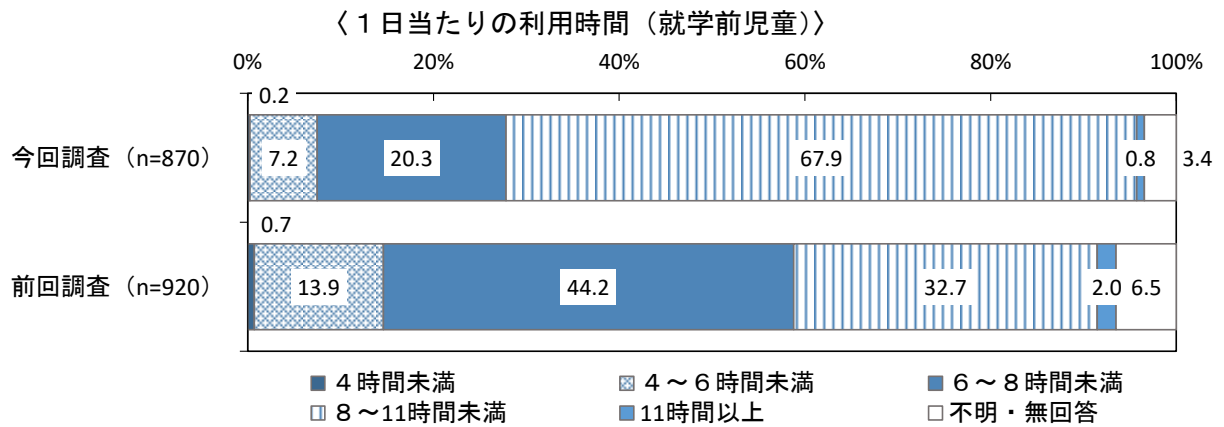
問 前問で選んだ教育・保育の事業について、現在、どのくらい利用していますか。

平日に定期的にご利用している教育・保育事業の1週当たりの利用日数については、「5日」が90.6%で最も高く、次いで「6日以上」が4.8%、「4日」が0.8%と続いており、1日当たりの利用時間については、「8～11 時間未満」が67.9%で最も高く、次いで「6～8 時間未満」が20.3%、「4～6 時間未満」が7.2%と続いています。

前回調査と比較すると、1日当たりの利用時間については、「6～8 時間未満」は前回調査（44.2%）より23.9ポイント減少し、「8～11 時間未満」は前回調査（32.7%）より35.2ポイント増加しています。

〈1週当たりの利用日数（就学前児童）〉





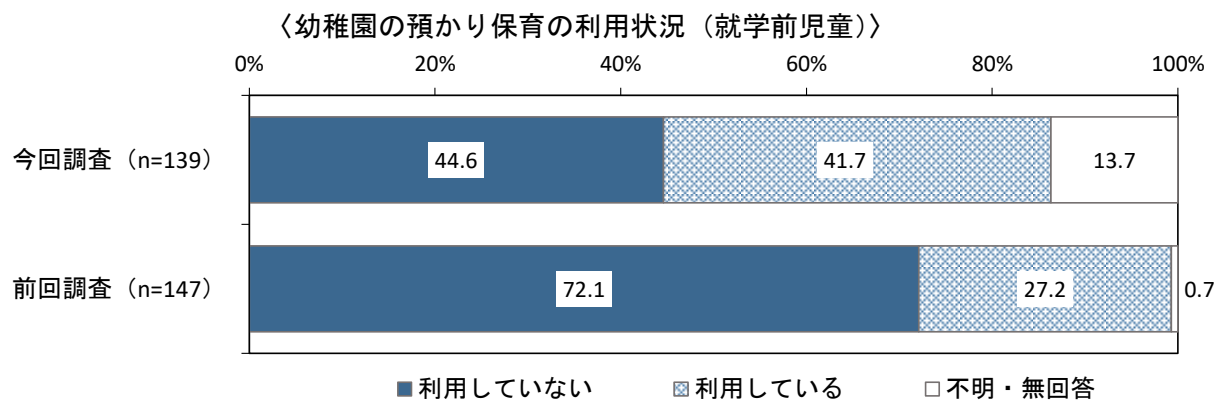
#### （４）幼稚園の預かり保育の利用状況（就学前児童）

問 【公立幼稚園・私立幼稚園を利用している方】

幼稚園の「預かり保育」（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）は利用していますか。（どちらかに○）

幼稚園の預かり保育の利用状況については、「利用していない」が44.6%、「利用している」が41.7%となっています。

前回調査と比較すると、「利用している」では、前回調査（27.2%）より14.5ポイント増加しています。



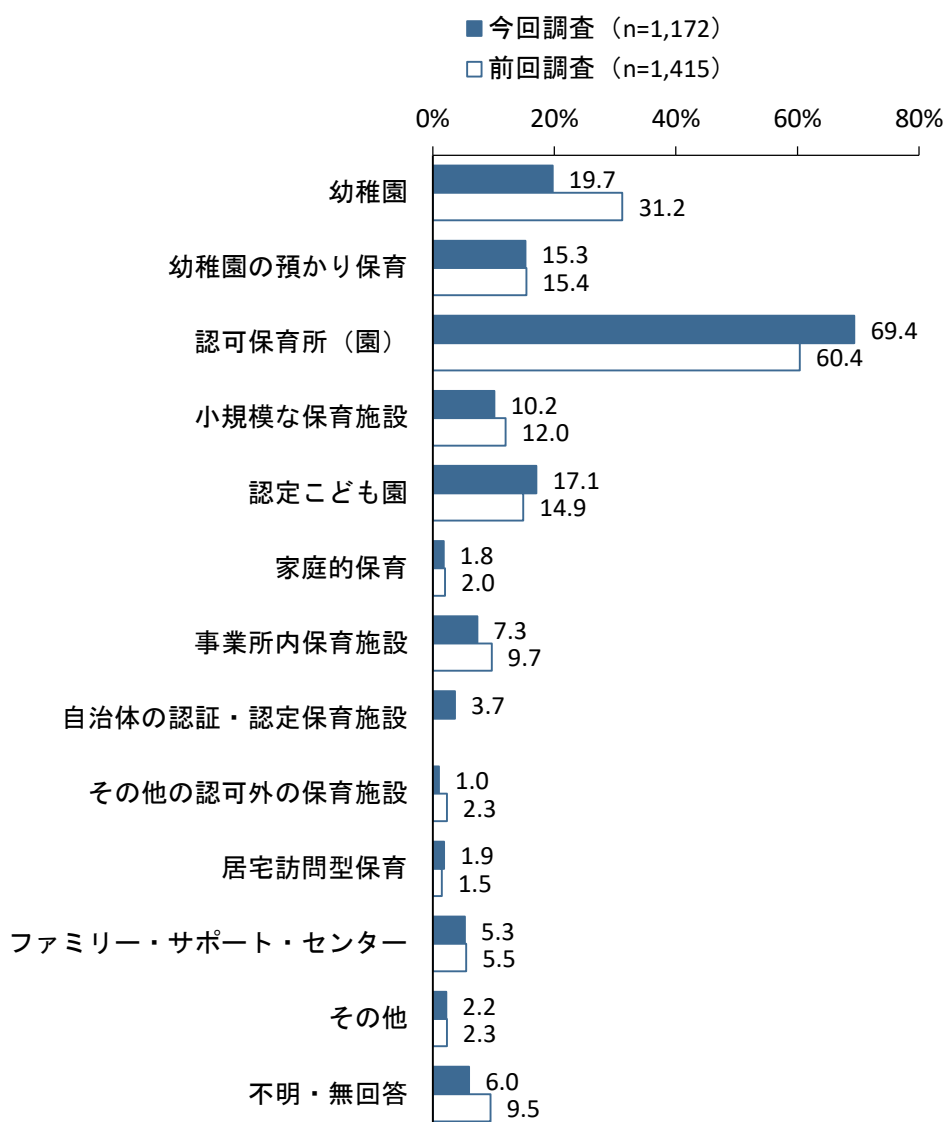
### (5) 平日に定期的に利用したい教育・保育事業（就学前児童）

問 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。  
（あてはまるものすべてに○）

平日に定期的に利用したい教育・保育事業については、「認可保育所（園）」が69.4%で最も高く、次いで「幼稚園」が19.7%、「認定こども園」が17.1%と続いています。

前回調査と比較すると、全体では、「認可保育所（園）」は前回調査（60.4%）より9.0ポイント増加している一方、「幼稚園」は前回調査（31.2%）より11.5ポイント減少しています。

〈平日に定期的に利用したい教育・保育事業<sup>1</sup>（就学前児童）〉



<sup>1</sup> 「自治体の認証・認定保育施設」は今回調査から追加されています。

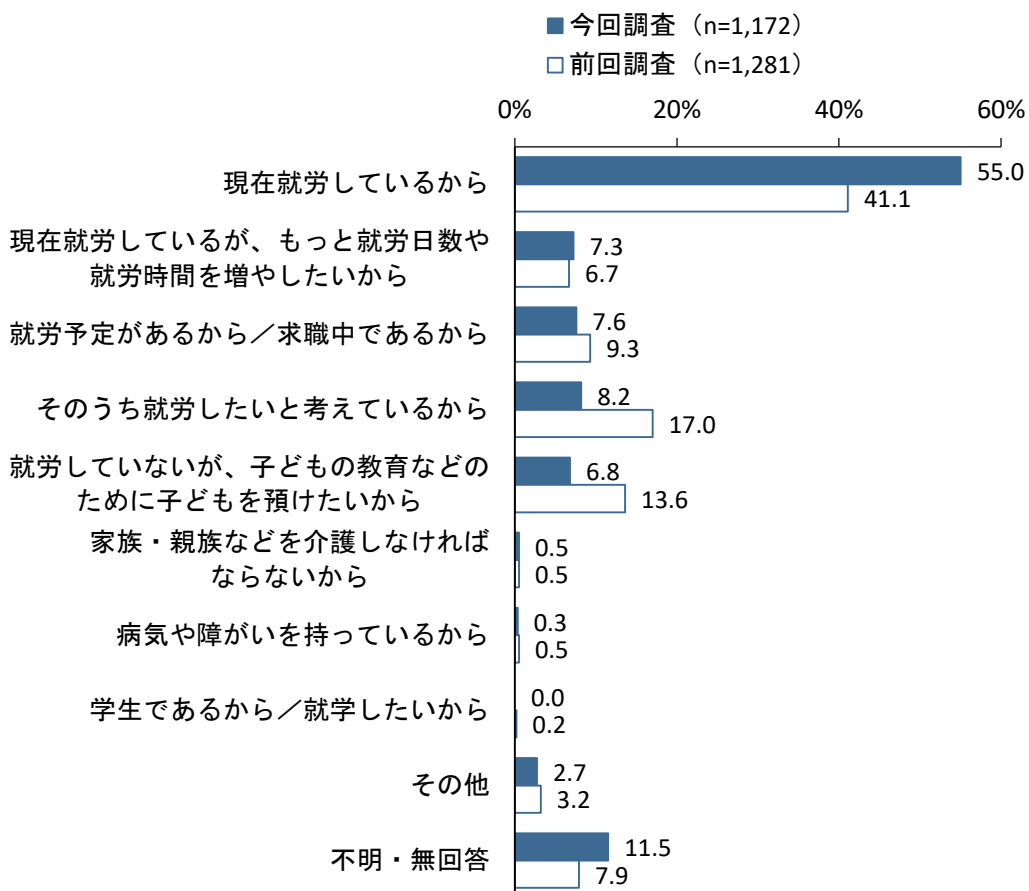
## (6) 定期的に教育・保育事業を利用したい主な理由（就学前児童）

問 前問で選んだ教育・保育事業を利用したいと考えている理由は主にどのようなことですか。（○はひとつ）

前問で選んだ教育・保育事業を利用したいと考えている主な理由については、「現在就労しているから」が55.0%で最も高く、次いで「そのうち就労したいと考えているから」が8.2%、「就労予定があるから／求職中であるから」が7.6%と続いています。

前回調査と比較すると、「そのうち就労したいと考えているから」は前回調査（17.0%）より8.8ポイント、「就労していないが、子どもの教育などのために子どもを預けたいから」は前回調査（13.6%）より6.8ポイントそれぞれ減少し、「現在就労しているから」は前回調査（41.1%）より13.9ポイント増加しています。

〈定期的に教育・保育事業を利用したい主な理由（就学前児童）〉



## (7) 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

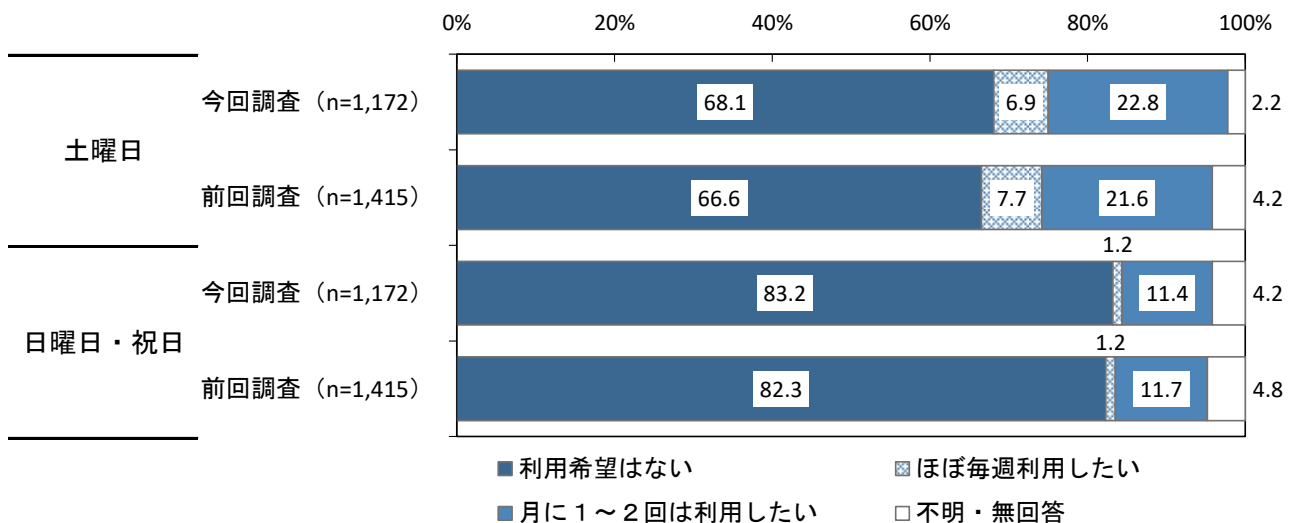
### (就学前児童)

#### ①土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用希望

問 宛名のお子さんについて、(1)土曜日と(2)日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか(一時的な利用は除きます)。(それぞれに○はひとつ)

土曜と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望について、土曜日は、「利用希望はない」が68.1%で最も高く、次いで「月に1~2回は利用したい」が22.8%、「ほぼ毎週利用したい」が6.9%となっており、日曜日は、「利用希望はない」が83.2%で最も高く、次いで「月に1~2回は利用したい」が11.4%、「ほぼ毎週利用したい」が1.2%となっています。

〈土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用希望(就学前児童)〉

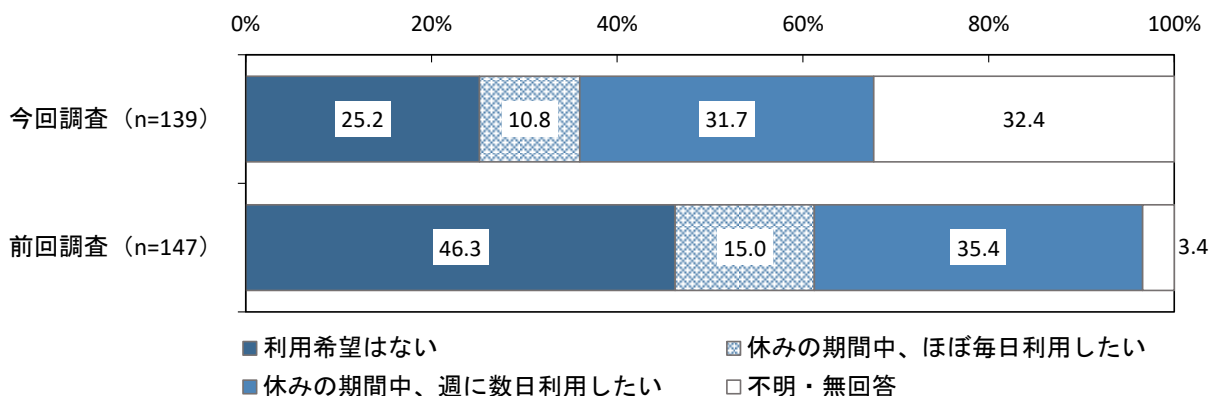


#### ②幼稚園を利用している方の長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望

問 【公立幼稚園・私立幼稚園を利用している方】  
宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。(○はひとつ)

幼稚園を利用している方の長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望については、「休みの期間中、週に数日利用したい」が31.7%で最も高く、次いで「利用希望はない」が25.2%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が10.8%と続いています。

〈幼稚園を利用している方の長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望(就学前児童)〉



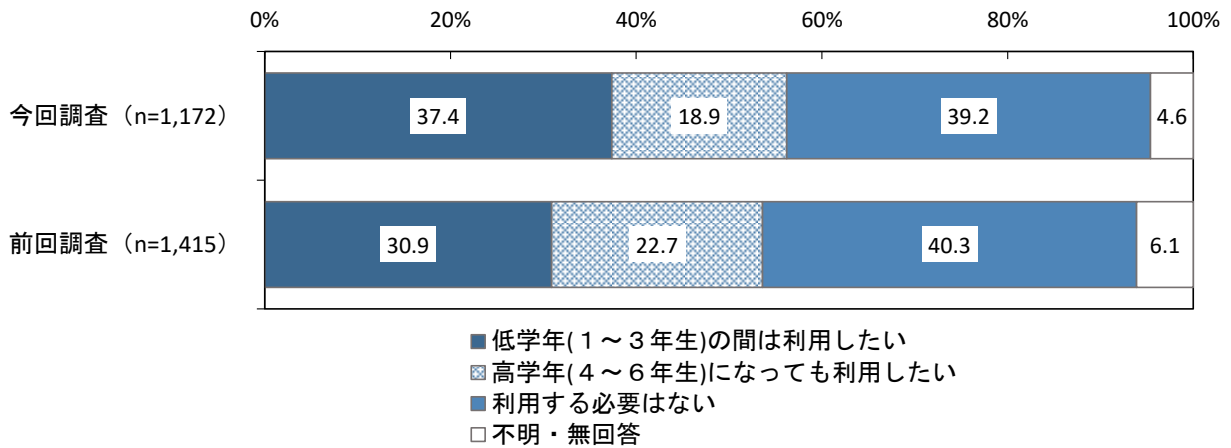


### (8) 放課後児童クラブ（学童保育）の利用意向（就学前児童）

問 宛名のお子さんについて、小学校入学以降のことについてうかがいます。放課後に、「放課後児童クラブ（学童保育）」を利用したいと思いますか。（○はひとつ）

放課後児童クラブ（学童保育）の利用意向については、「利用する必要はない」が39.2%で最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が37.4%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が18.9%となっています。

〈放課後児童クラブ（学童保育）の利用意向（就学前児童）〉



### 3. 放課後の過ごし方について

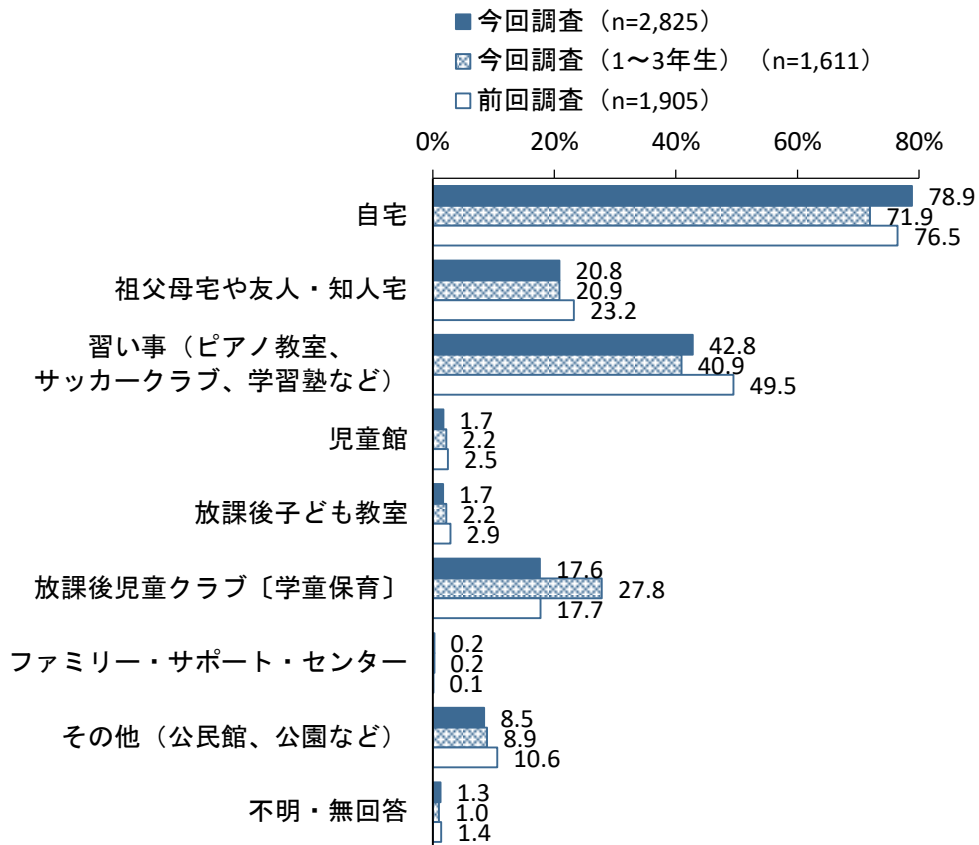
#### (1) 放課後の過ごし方（小学生）

問 お子さんについて、現在、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

現在のお子さんの放課後の過ごし方については、「自宅」が78.9%で最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が42.8%、「祖父母宅や友人・知人宅」が20.8%と続いています。

前回調査と比較すると、「自宅」は前回調査（76.5%）より2.4ポイント増加し、「祖父母宅や友人・知人宅」は前回調査（23.2%）より2.4ポイント減少しています。また、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」については、前回調査（49.5%）より最も割合が減少し6.7ポイント減となっています。

〈放課後の過ごし方（小学生）〉



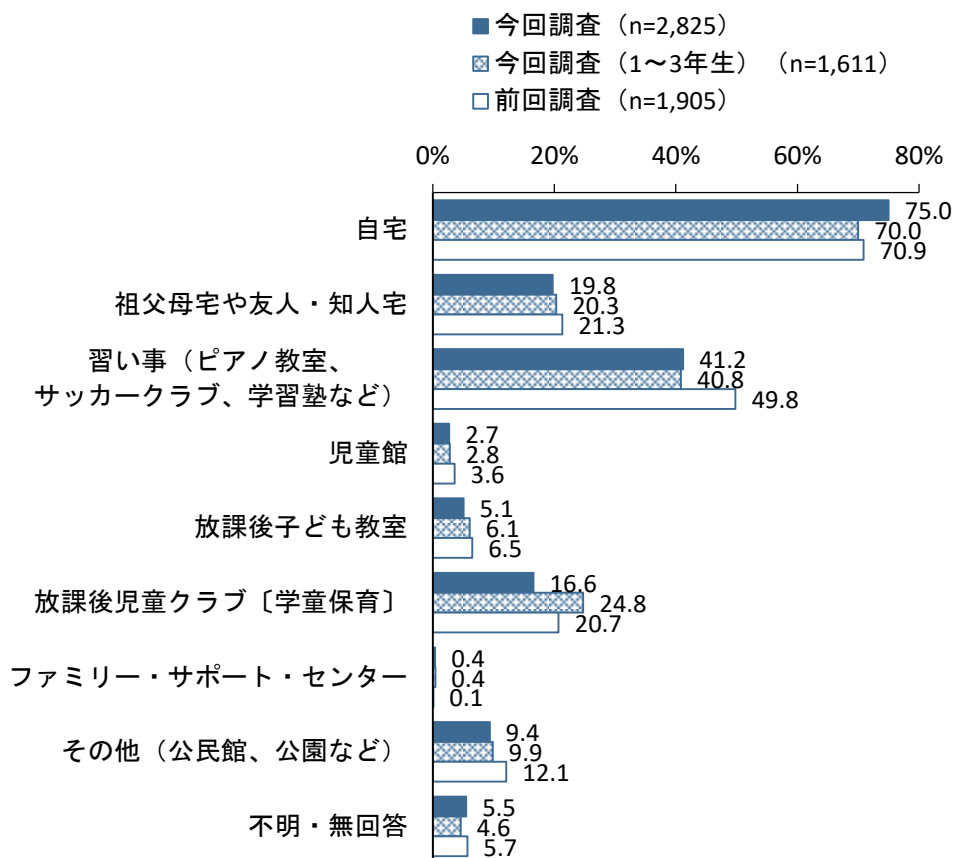
## (2) 希望する今後の放課後の過ごし方（小学生）

問 お子さんについて、今後、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

希望する今後の放課後の過ごし方については、「自宅」が75.0%で最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が41.2%、「祖父母宅や友人・知人宅」が19.8%と続いています。

前回調査と比較すると、「自宅」は前回調査（70.9%）より4.1ポイント増加し、「祖父母宅や友人・知人宅」は前回調査（21.3%）より1.5ポイント減少しています。また、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」については、前回調査（49.8%）より最も割合が減少し8.6ポイント減となっています。

〈希望する今後の放課後の過ごし方（小学生）〉



希望する今後の放課後の過ごし方について学年別でみると、「自宅」では、学年が上がるにつれて割合が増加しており、6年生が90.9%で最も高く、1年生が67.8%で最も低くなっています。

「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」では、いずれの学年も3～4割台となっており、5年生が47.8%で最も高く、1年生が39.1%で最も低くなっています。

「放課後児童クラブ〔学童保育〕」では、学年が上がるにつれて割合が減少しており、1年生が33.6%で最も高く、6年生が2.6%で最も低くなっています。

前回調査と比較すると（1～3年生）、いずれの学年においても「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が前回調査より割合が減少し、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」の割合が増加しています。

〈希望する今後の放課後の過ごし方【学年別】（小学生）〉

上段：実数（人）、下段：構成比（％）

		全体	自宅	祖父母宅 や友人・ 知人宅	習い事 (ピアノ 教室、 サッカー クラブ、 学習塾な ど)	児童館	放課後子 ども教室	放課後児 童クラブ 〔学童保 育〕	ファミ リー・サ ポート・ センター	その他 (公民 館、公園 など)
1年生	今回調査	562 100.0	381 67.8	113 20.1	220 39.1	22 3.9	42 7.5	189 33.6	2 0.4	49 8.7
	前回調査	615 100.0	418 68.0	126 20.5	280 45.5	24 3.9	47 7.6	180 29.3	1 0.2	80 13.0
2年生	今回調査	514 100.0	362 70.4	103 20.0	234 45.5	18 3.5	34 6.6	138 26.8	4 0.8	52 10.1
	前回調査	621 100.0	475 76.5	147 23.7	358 57.6	30 4.8	45 7.2	134 21.6	1 0.2	89 14.3
3年生	今回調査	461 100.0	385 83.5	111 24.1	204 44.3	5 1.1	22 4.8	72 15.6	1 0.2	58 12.6
	前回調査	550 100.0	451 82.0	128 23.3	305 55.5	14 2.5	32 5.8	79 14.4	-	60 10.9
4年生	今回調査	415 100.0	355 85.5	91 21.9	187 45.1	12 2.9	18 4.3	35 8.4	-	42 10.1
	前回調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5年生	今回調査	372 100.0	323 86.8	83 22.3	178 47.8	13 3.5	18 4.8	21 5.6	2 0.5	44 11.8
	前回調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6年生	今回調査	341 100.0	310 90.9	55 16.1	138 40.5	6 1.8	8 2.3	9 2.6	2 0.6	19 5.6
	前回調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※網掛け■は最も割合が高いもの

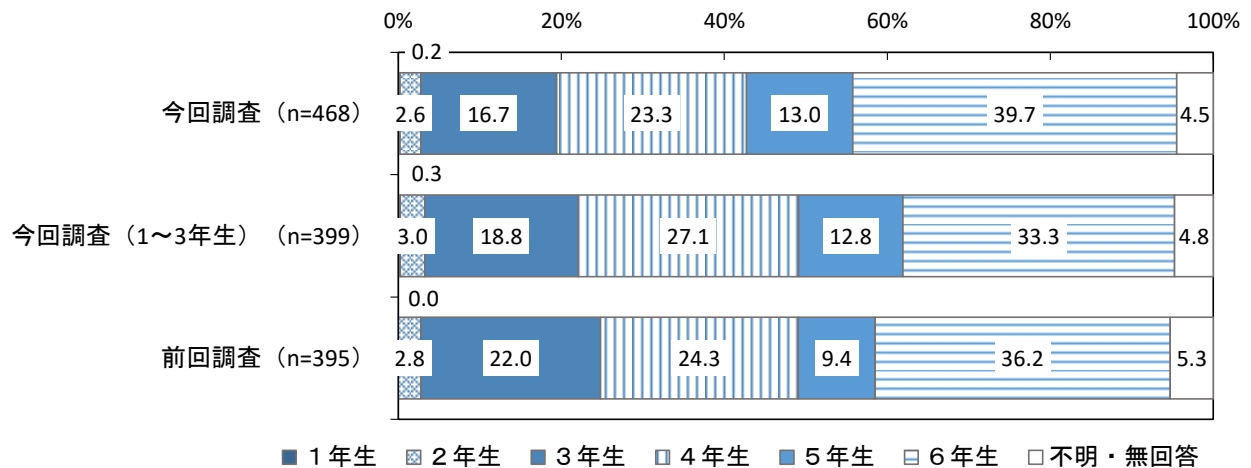
### (3) 放課後児童クラブを何年生まで利用したいか（小学生）

問 【希望する今後の放課後の過ごし方で放課後児童クラブ（学童保育）を回答した方】  
お子さんについて、何年生になるまで放課後児童クラブを利用したいですか。

放課後児童クラブを何年生まで利用したいかについては、「6年生」が39.7%で最も高く、次いで「4年生」が23.3%、「3年生」が16.7%と続いています。

前回調査と比較すると、『5年生以上』（52.7%）では、前回調査（45.6%）より7.1ポイント増加しています。

〈放課後児童クラブを何年生まで利用したいか（小学生）〉



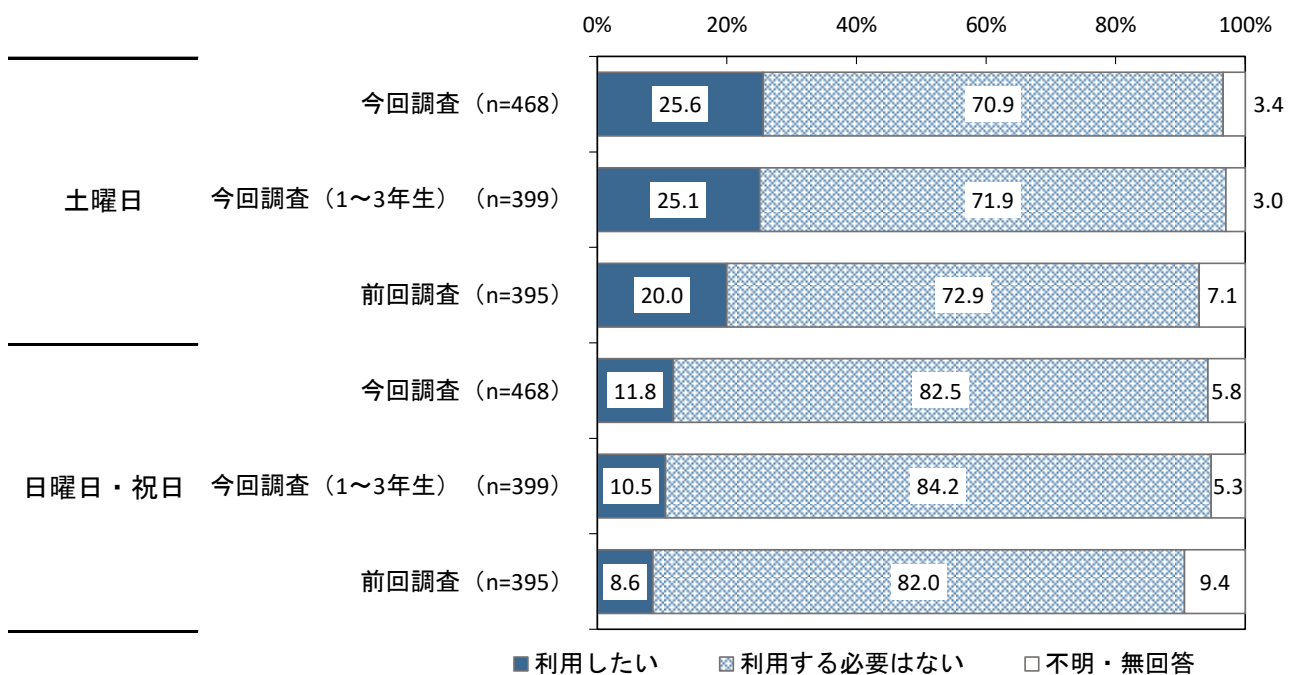
#### (4) 土曜と日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望（小学生）

問 お子さんについて、(1)土曜日と(2)日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。(それぞれに○はひとつずつ)

土曜と日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望について、土曜日は、「利用する必要はない」が70.9%、「利用したい」が25.6%となっており、日曜日は、「利用する必要はない」が82.5%、「利用したい」が11.8%となっています。

前回調査と比較すると、「利用したい」では、土曜日、日曜日・祝日いずれも前回調査よりも割合が増加しています。

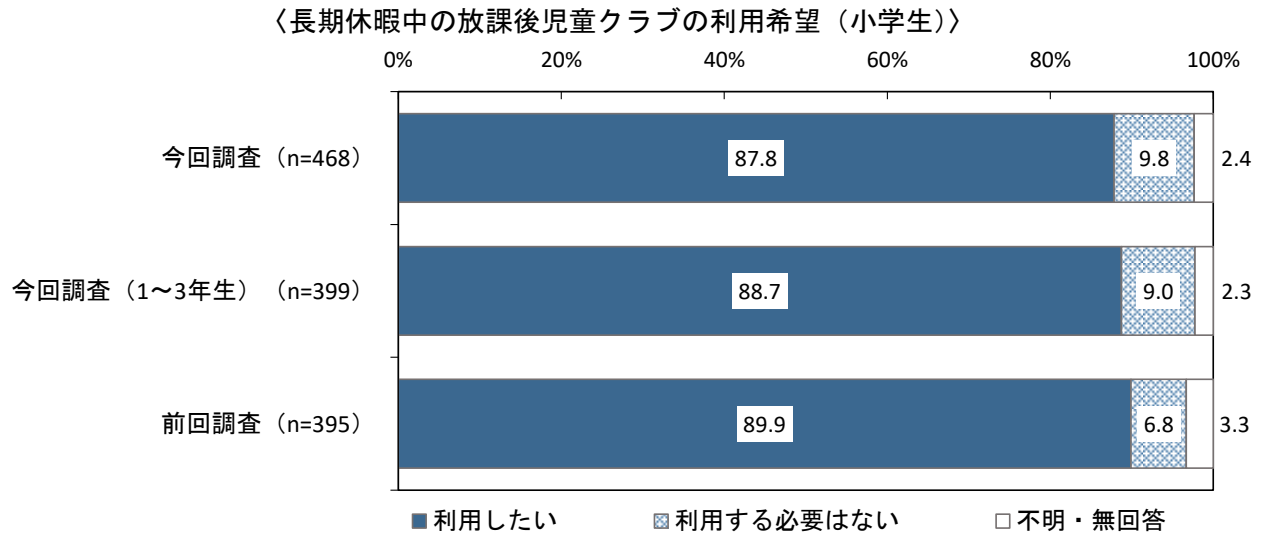
〈土曜と日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望（小学生）〉



### (5) 長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望（小学生）

問 お子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。（○はひとつ）

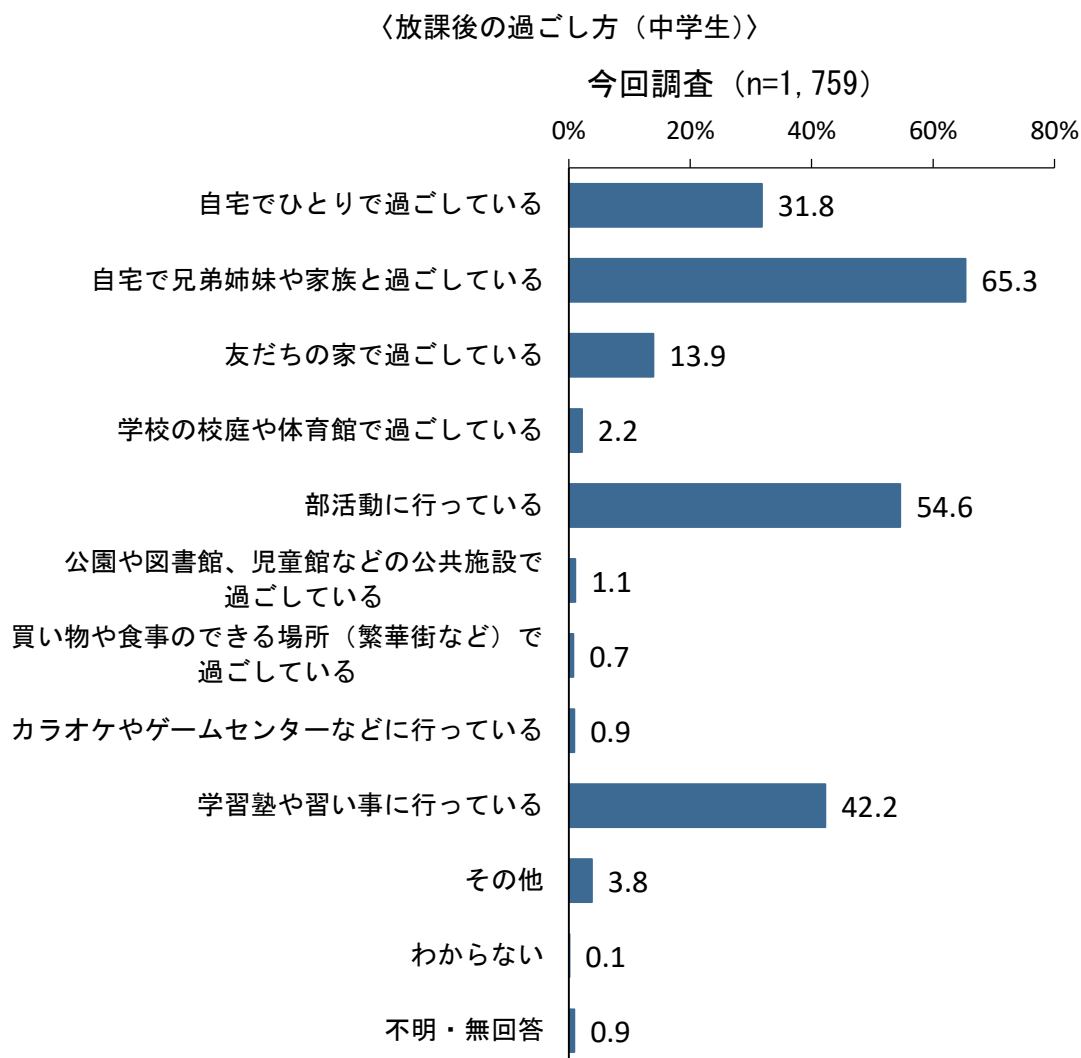
長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望については、「利用したい」が87.8%、「利用する必要はない」が9.8%となっています。



## (6) 放課後の過ごし方 (中学生)

問 お子さんは、放課後をどこで過ごすことが多いですか。(〇は3つまで)

放課後の過ごし方については、「自宅で兄弟姉妹や家族と過ごしている」が65.3%で最も高く、次いで「部活動に行っている」が54.6%、「学習塾や習い事に行っている」が42.2%と続いています。



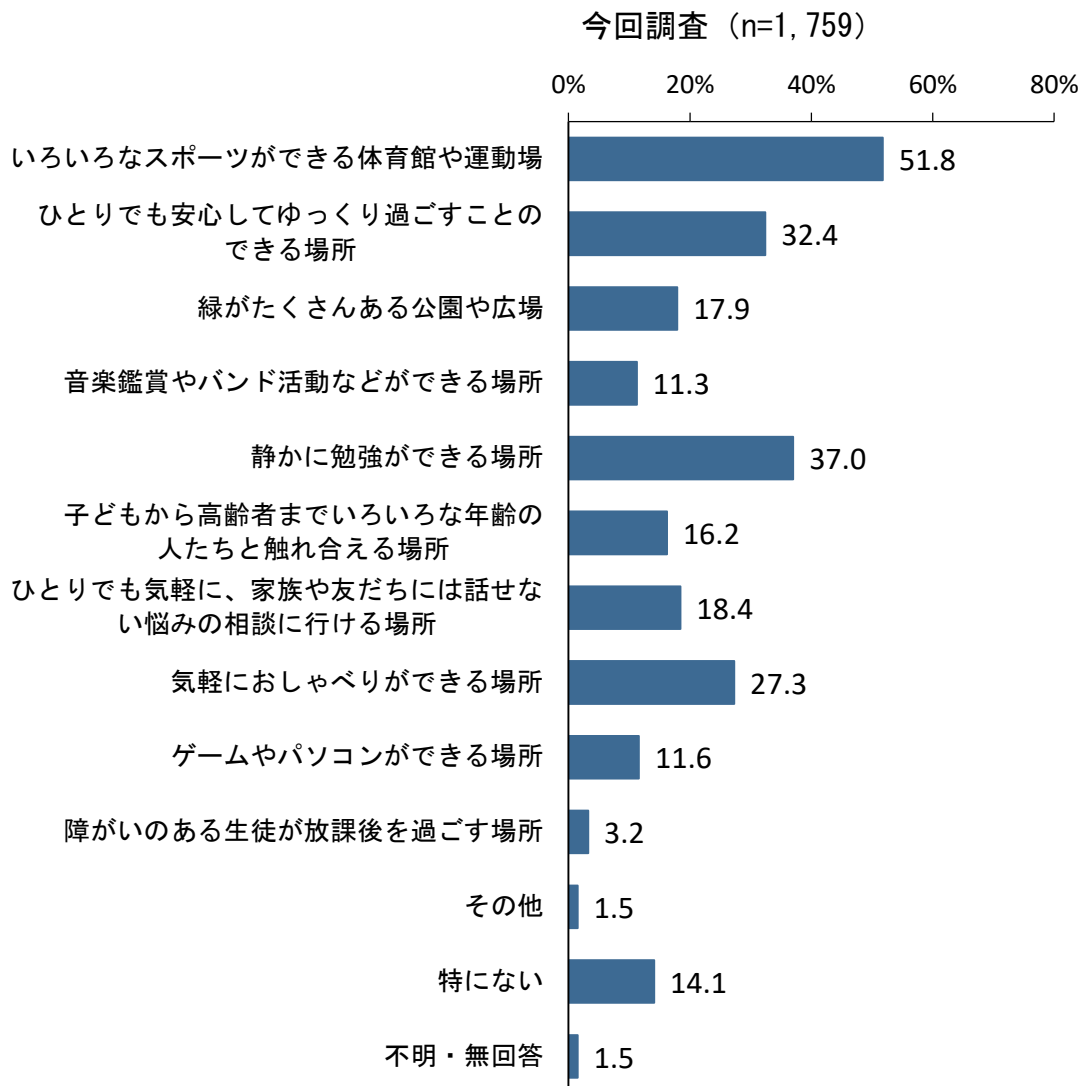


### (7) 希望する放課後を過ごす場所 (中学生)

問 お子さんについて、学校と家以外で、放課後を過ごす場所としてどのような場所があればいいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

希望する放課後を過ごす場所については、「いろいろなスポーツができる体育館や運動場」が51.8%で最も高く、次いで「静かに勉強ができる場所」が37.0%、「ひとりでも安心してゆっくり過ごすことのできる場所」が32.4%と続いています。

#### 〈希望する放課後を過ごす場所 (中学生)〉



## 4. 子育て全般について

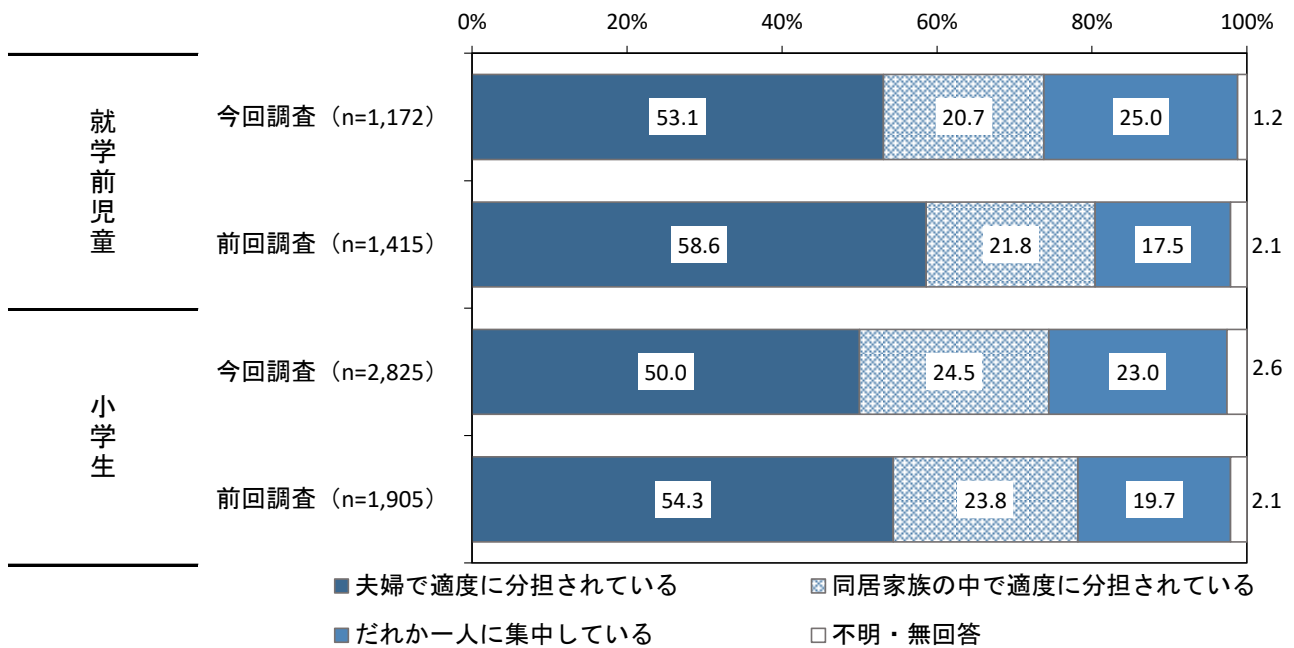
### (1) お子さんの世話やしつけの分担状況（就学前児童・小学生）

問 お子さんの世話やしつけは、分担されていますか。（〇はひとつ）

お子さんの世話やしつけの分担状況については、就学前児童、小学生いずれも「夫婦で適度に分担されている」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると「だれか一人に集中している」は、就学前児童、小学生いずれも前回調査より割合が増加しています。

〈お子さんの世話やしつけの分担状況（就学前児童、小学生）〉



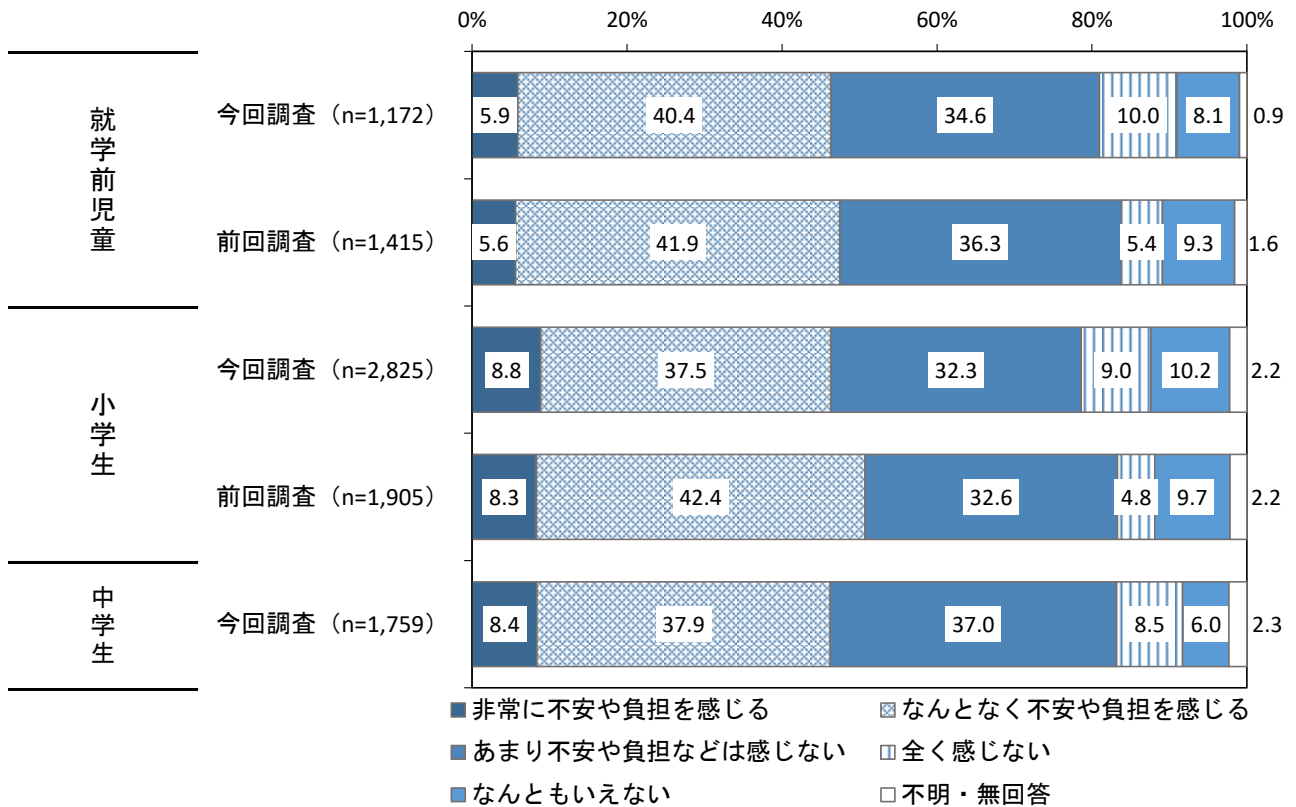
## (2) 子育てに関する不安感・負担感

問 子育てに関して、不安感や負担感などを感じることはありますか。(〇はひとつ)

子育てに関する不安感・負担感については、就学前児童、小学生、中学生いずれも「なんとなく不安や負担を感じる」の割合が最も高くなります。

前回調査と比較すると、「全く感じない」は、就学前児童、小学生いずれも割合が増加しています。

〈子育てに関する不安感・負担感〉

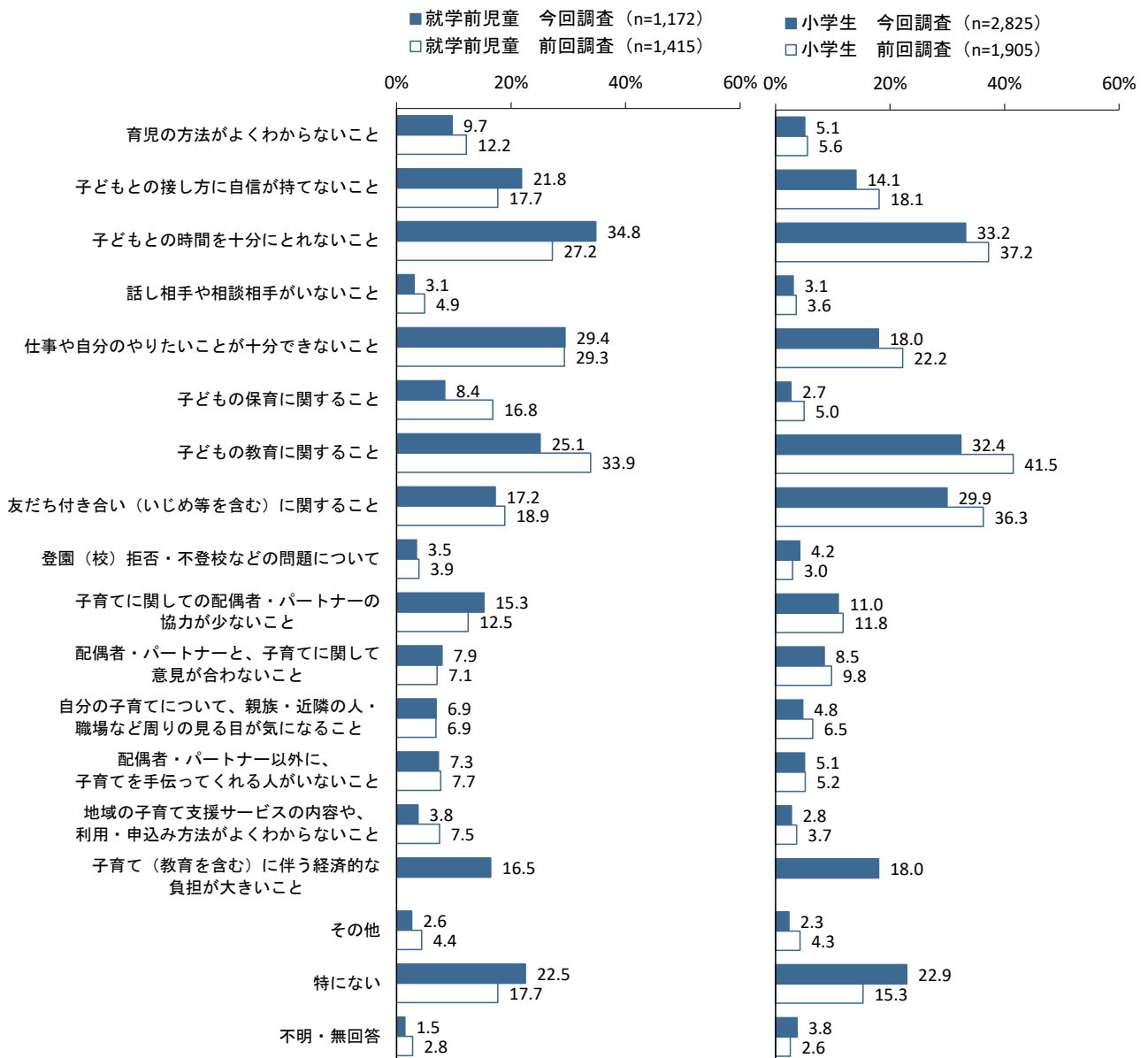


### (3) 子育てに関して悩んでいること、不安に思うこと、気になること

問 子育てに関して、日常悩んでいること、不安に思うこと、また気になることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

子育てに関して悩んでいること、不安に思うこと、気になることについては、就学前児童、小学生いずれも「子どもとの時間を十分にとれないこと」の割合が最も高く、就学前児童では次いで「仕事や自分のやりたいことが十分できないこと」の割合が高く、小学生では次いで「子どもの教育に関すること」の割合が高くなっています。

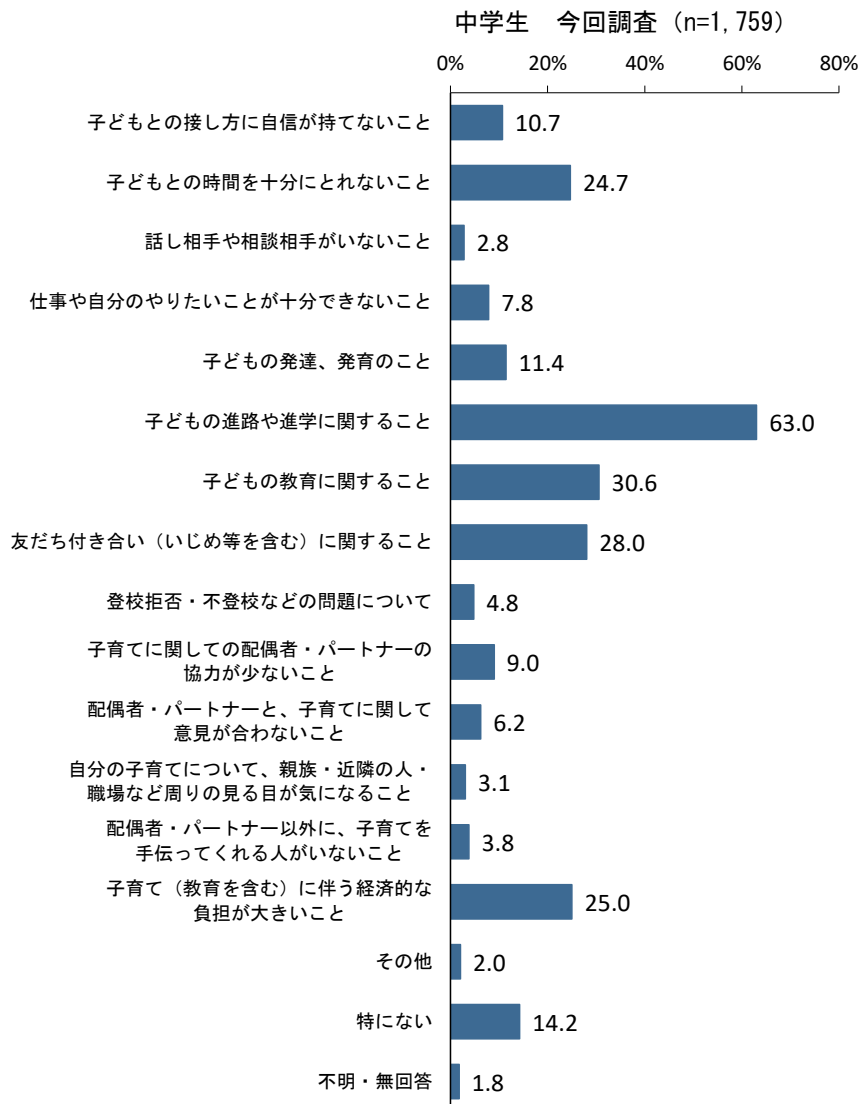
〈子育てに関して悩んでいること、不安に思うこと、気になること（就学前児童・小学生）<sup>2)</sup>〉



<sup>2)</sup> 今回調査より「子育て（教育を含む）に伴う経済的な負担が大きいこと」を追加しています。

子育てに関して悩んでいること、不安に思うこと、気になることについて、中学生では「子どもの進路や進学に関すること」が63.0%で最も高く、次いで「子どもの教育に関すること」が30.6%、「友だち付き合い（いじめ等を含む）に関すること」が28.0%と続いています。

〈子育てに関して悩んでいること、不安に思うこと、気になること（中学生）〉

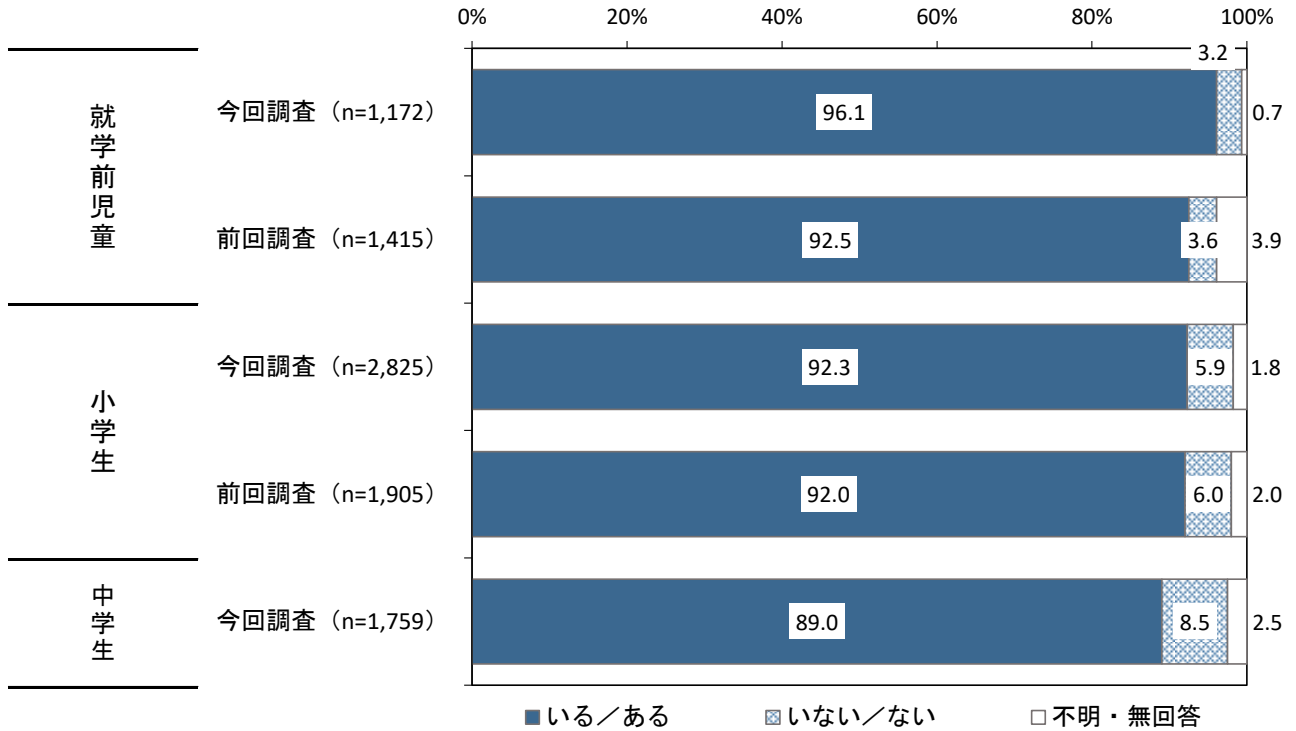


#### (4) 子育てについて気軽に相談できる人や場所があるかどうか

問 宛名のお子さんの子育てをする上で、気軽に相談できる人はいますか。または、相談できる場所がありますか。(どちらかに○)

子育てについて気軽に相談できる人や場所があるかどうかについては、「いる／ある」が就学前児童では96.1%、小学生では92.3%、中学生では92.0%となっています。

〈子育てについて気軽に相談できる人や場所があるかどうか〉



## (5) 子育てに関して気軽に相談できる先

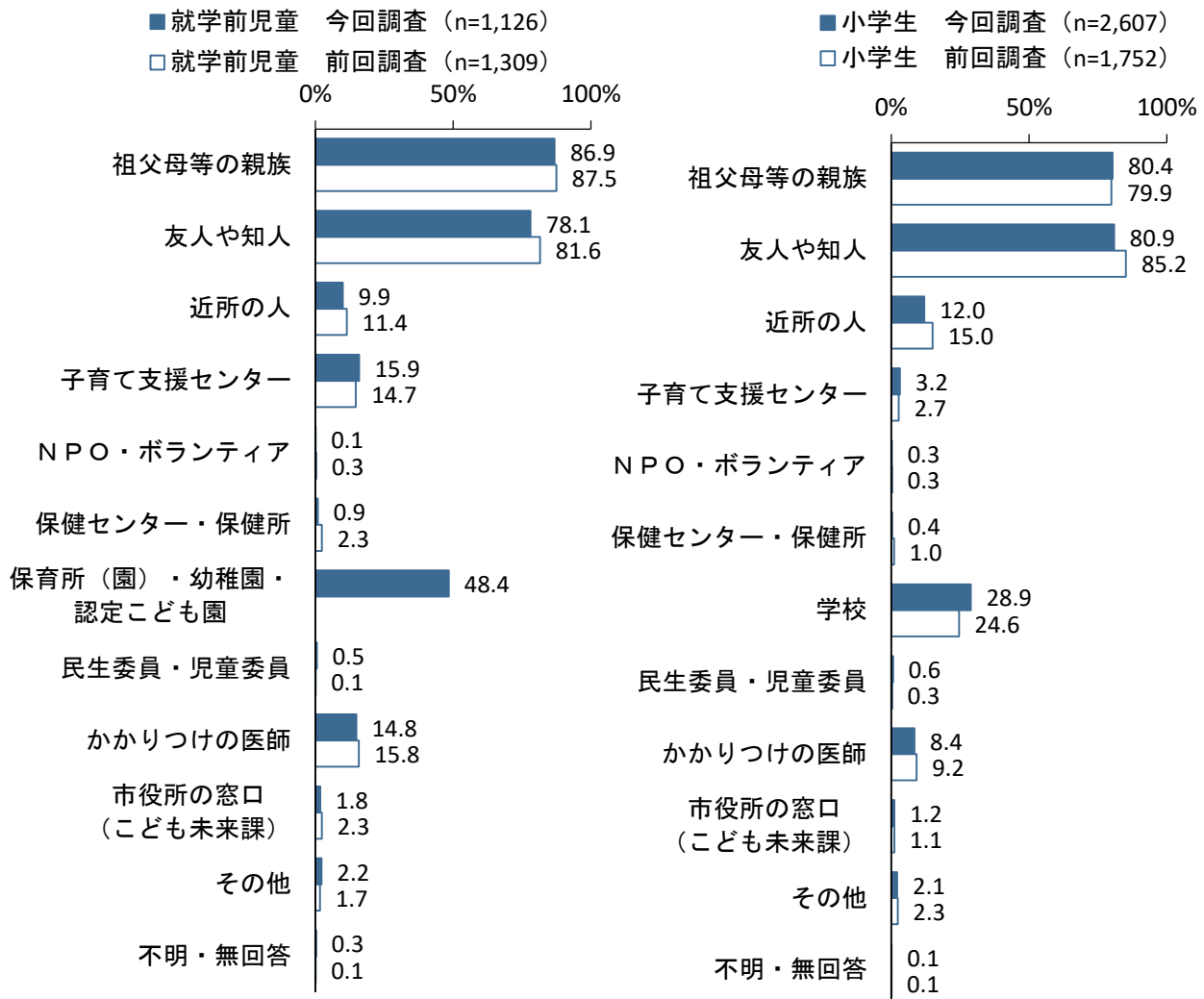
問 【前問で「いる／ある」を回答した方】

お子さんの子育てに関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。

（あてはまるものすべてに○）

子育てに関して気軽に相談できる先について、就学前児童では「祖父母等の親族」の割合が最も高く、小学生では「友人や知人」の割合が最も高くなっています。

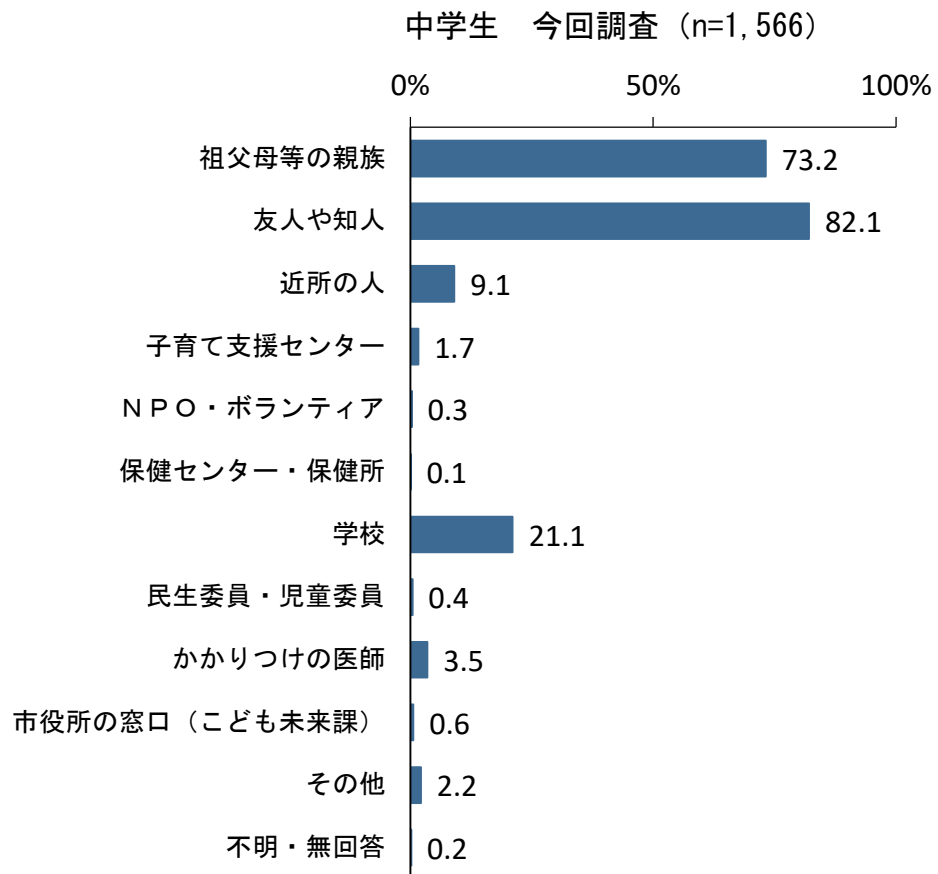
〈子育てに関して気軽に相談できる先（就学前児童・小学生）<sup>3)</sup>〉



<sup>3)</sup> 就学前児童の前回調査において、「保育所」、「幼稚園」は別の項目であったため表示していません。

子育てに関して気軽に相談できる先について、中学生では「友人や知人」が 82.1%で最も高く、次いで「祖父母等の親族」が 73.2%、「学校」が 21.1%と続いています。

〈子育てに関して気軽に相談できる先（中学生）〉



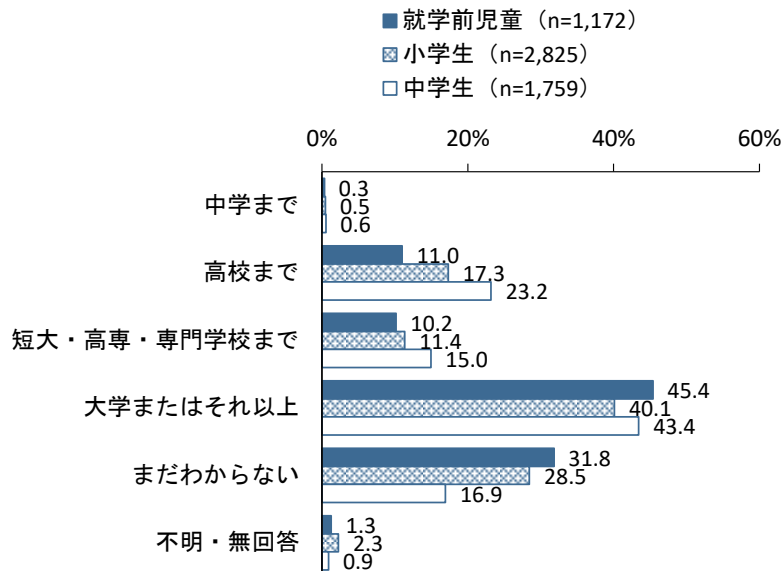


## (6) 子どもに対する進学意向

問 お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。(○はひとつ)

お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいと考えているかについては、就学前児童、小学生、中学生いずれも「大学またはそれ以上」の割合が最も高くなっています。

〈子どもに対する進学意向〉

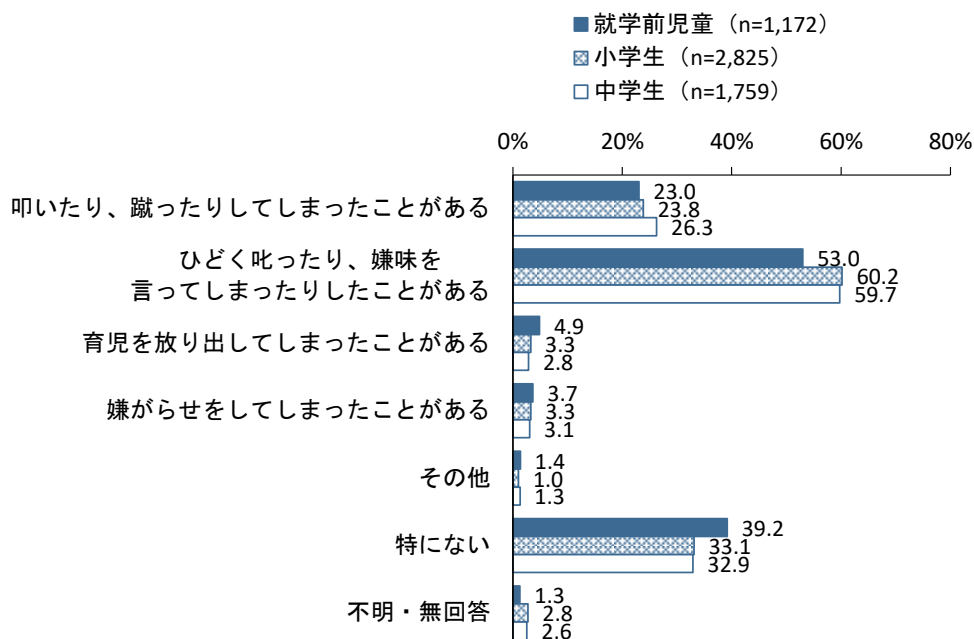


## (7) 子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまった経験

問 今までに、子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまった経験はありますか。(あてはまるものすべてに○)

子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまった経験については、就学前児童、小学生、中学生いずれも「ひどく叱ったり、嫌味を言ってしまったりしたことがある」の割合が最も高くなっています。

〈子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまった経験〉

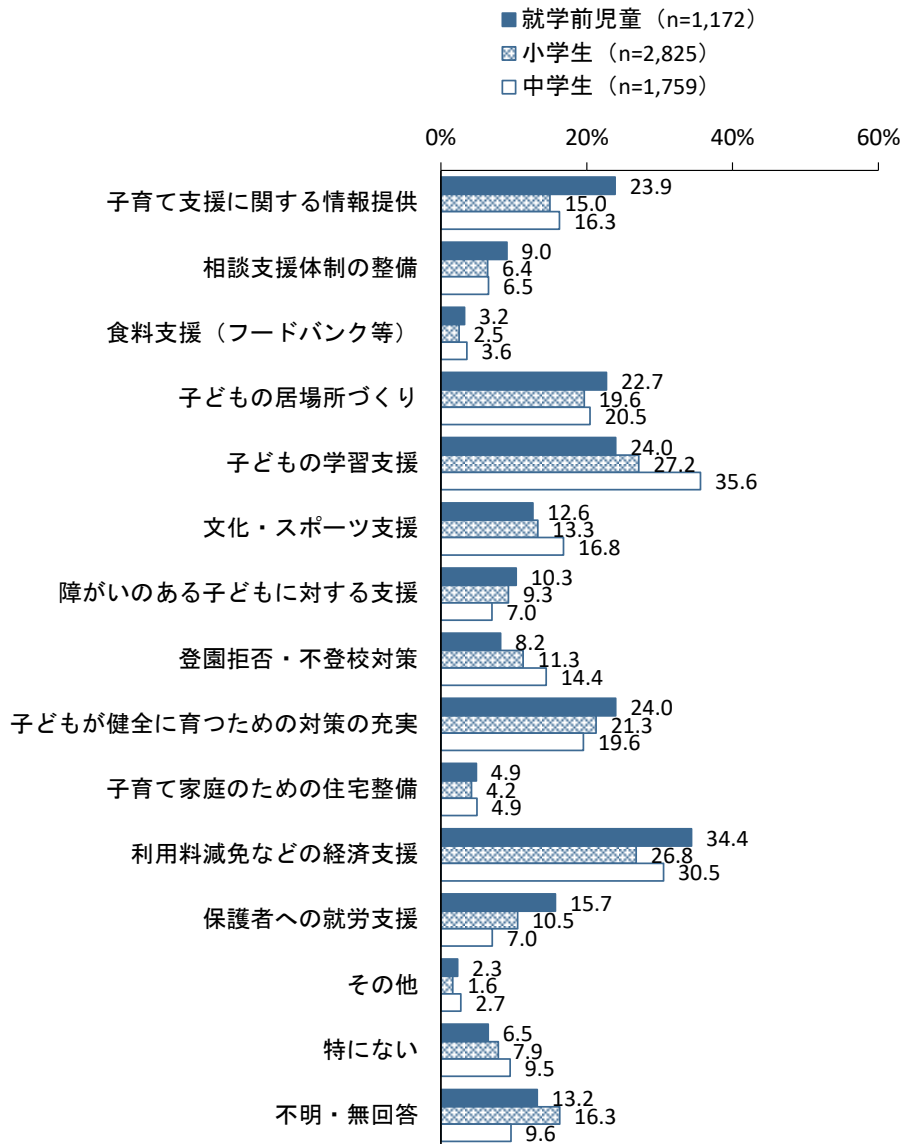


## (8) 必要だと思う子育ての支援策

問 今後、子育ての支援策として、必要だと思う施策はどのようなことですか。  
(〇は3つまで)

必要だと思う子育ての支援策について、就学前児童では「利用料減免などの経済支援」の割合が最も高く、小学生、中学生ではいずれも「子どもの学習支援」の割合が最も高くなっています。

〈必要だと思う子育ての支援策〉



	就学前児童	小学生	中学生
第1位	利用料減免などの経済支援	子どもの学習支援	子どもの学習支援
第2位	子どもの学習支援	利用料減免などの経済支援	利用料減免などの経済支援
第3位	子どもが健全に育つための対策の充実	子どもが健全に育つための対策の充実	子どもの居場所づくり

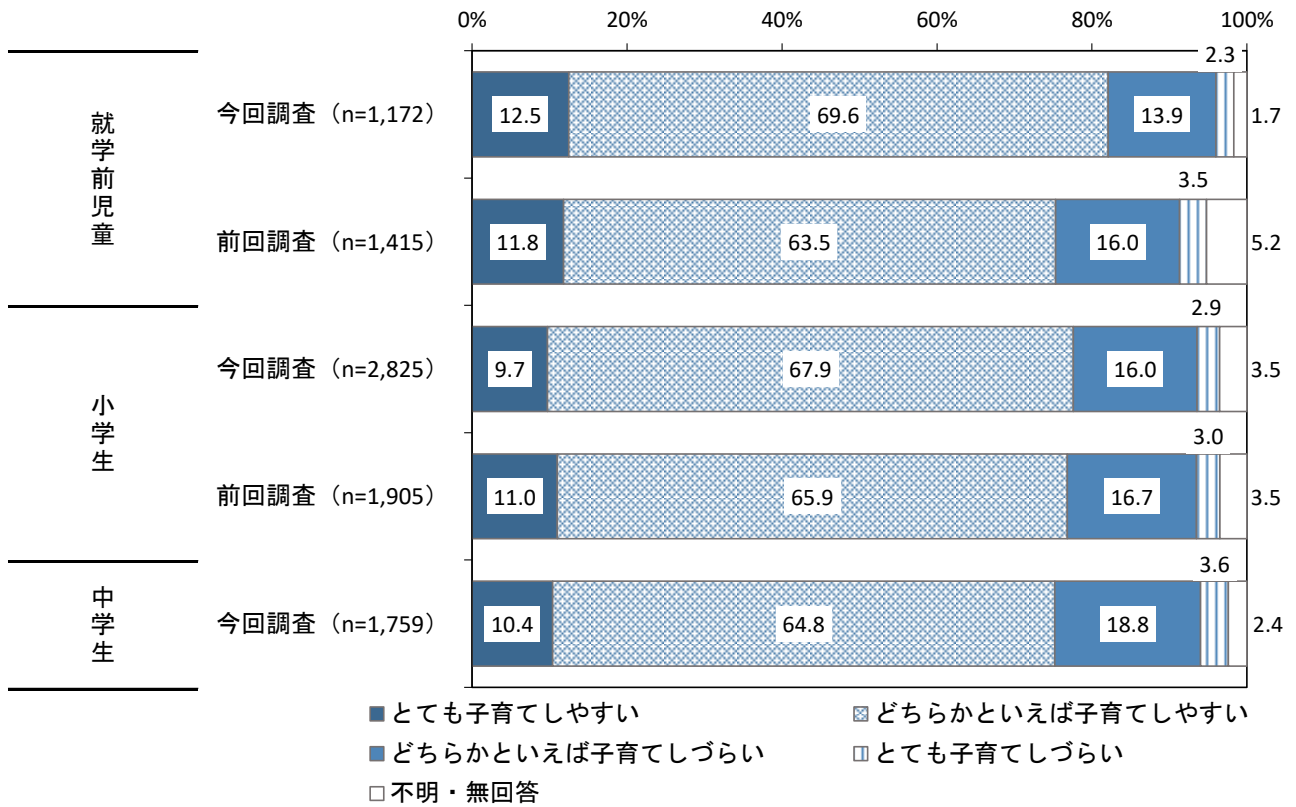
※就学前児童の第2位、第3位については同率となっています。

### (9) 地域の子育てのしやすさ

問 お住まいの地域は、子育てがしやすいと思いますか。(〇はひとつ)

地域の子育てのしやすさについては、就学前児童、小学生、中学生いずれも「どちらかといえ  
ば子育てしやすい」の割合が最も高くなっています。

〈地域の子育てのしやすさ〉



## Ⅲ. 生活困窮の状況

### 1. 本調査における「生活困難層」の推定について

貧困の指標として、所得を基準とした相対的貧困率がありますが、これには現物給付や、貯蓄や持家といった資産、負債などが反映されていないため、この指標だけでは生活水準そのものを示しているとは言えません。また、自記式の調査であるため、把握できる世帯所得の精緻度が限られています。そのため、生活に必要な物やサービスを、経済的な理由で享受することができない状態（物質的剥奪状態）にあるかどうかを測定し、その結果をもってその人の生活水準を測る指標を追加します。

本調査では、子どもの「生活困難層」の推定について、以下の3つの要素に基づいて分類しています。

#### (1) 低所得

「低所得」は、世帯所得を、世帯人数の平方根で割った値（等価所得）が、厚生労働省「平成29年国民生活基礎調査」から算出される基準未満（140.6万円）の世帯とします。

なお、国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない人の割合のことです。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいい、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づき算出されています。

#### (2) 家計の逼迫

「家計の逼迫」は、家計の中で大きな比重を占め、これらの欠乏により、基本的な生活水準を保つことが難しいと考えられる公共料金や食料・衣類の費用が捻出できない状況と定義し、経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験、食料・衣服を買えなかった経験などの7項目のうち、1つ以上が該当する世帯を対象とします。

- |                     |                     |        |
|---------------------|---------------------|--------|
| 1 電話料金              | 2 電気料金              | 3 ガス料金 |
| 4 水道料金              | 5 家賃                |        |
| 6 家族が必要とする食料が買えなかった | 7 家族が必要とする衣類が買えなかった |        |

#### (3) 子どもの体験や所有物の欠如

「子どもの体験や所有物の欠如」は、大多数の子どもが一般的に享受していると考えられる経験や物品で、子どもの体験や所有物などに関する15項目のうち、経済的な理由で、欠如している項目が3つ以上該当する世帯を対象とします。

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 海水浴に行く                  | 2 博物館・科学館・美術館などに行く      |
| 3 キャンプやバーベキューに行く          | 4 スポーツ観戦や劇場に行く          |
| 5 遊園地やテーマパークに行く           | 6 毎月お小遣いを渡す             |
| 7 毎年新しい洋服・靴を買う            | 8 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる |
| 9 学習塾に通わせる（又は家庭教師に来てもらう）  |                         |
| 10 お誕生日のお祝いをする            | 11 1年に1回くらい家族旅行に行く      |
| 12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる |                         |
| 13 子どもの年齢に合った本            | 14 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ     |

## 15 子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所

### 2. 「生活困難層」について

生活困難層のうち、2つ以上の要素に該当する層を「困窮層」、いずれか1つの要素に該当する層を「周辺層」、いずれの要素にも該当しない層を「一般層」と定義します。

困窮層	3つに該当	①低所得+②家計の逼迫+③子どもの体験や所有物の欠如
	2つに該当	①低所得+②家計の逼迫
		①低所得+③子どもの体験や所有物の欠如
		②家計の逼迫+③子どもの体験や所有物の欠如
周辺層	1つに該当	①低所得のみ
		②家計の逼迫のみ
		③子どもの体験や所有物の欠如のみ
一般層	該当しない	いずれの要素にも該当しない

### 3. 生活困難層の割合

#### (1) 生活困難層の割合

		全体	就学前児童	小学生	中学生
生活困難層		23.5%	21.1%	23.5%	25.2%
	困窮層	8.7%	5.5%	8.9%	10.9%
	周辺層	14.7%	15.6%	14.6%	14.3%
一般層		76.5%	78.9%	76.5%	74.8%

#### (2) 「低所得」、「家計の逼迫」、「子どもの体験や所有物の欠如」の割合

	全体	就学前児童	小学生	中学生
①低所得	12.9%	13.3%	13.0%	12.6%
②家計の逼迫	7.6%	6.4%	7.4%	8.8%
③子どもの体験や所有物の欠如	13.0%	7.4%	13.4%	16.4%

#### (3) 世帯類型別生活困難層の割合

		母子世帯	父子世帯	ふたり親世帯
生活困難層		66.2%	39.7%	19.0%
	困窮層	36.2%	15.9%	5.9%
	周辺層	30.1%	23.8%	13.1%
一般層		33.8%	60.3%	81.0%

**(4) 世帯類型別「低所得」、「家計の逼迫」、「子どもの体験や所有物の欠如」の割合**

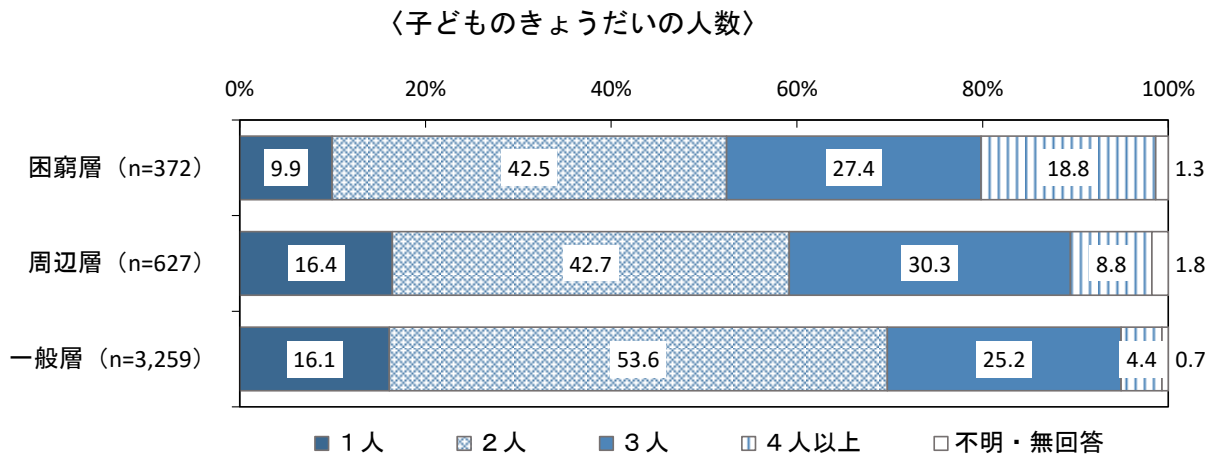
	母子世帯	父子世帯	ふたり親世帯
①低所得	54.5%	19.3%	8.8%
②家計の逼迫	20.3%	15.7%	6.2%
③子どもの体験や所有物の欠如	36.9%	20.8%	10.4%

**4. 生活困難層の現状**

**(1) 回答者の属性と家庭環境**

**①子どものきょうだいの人数**

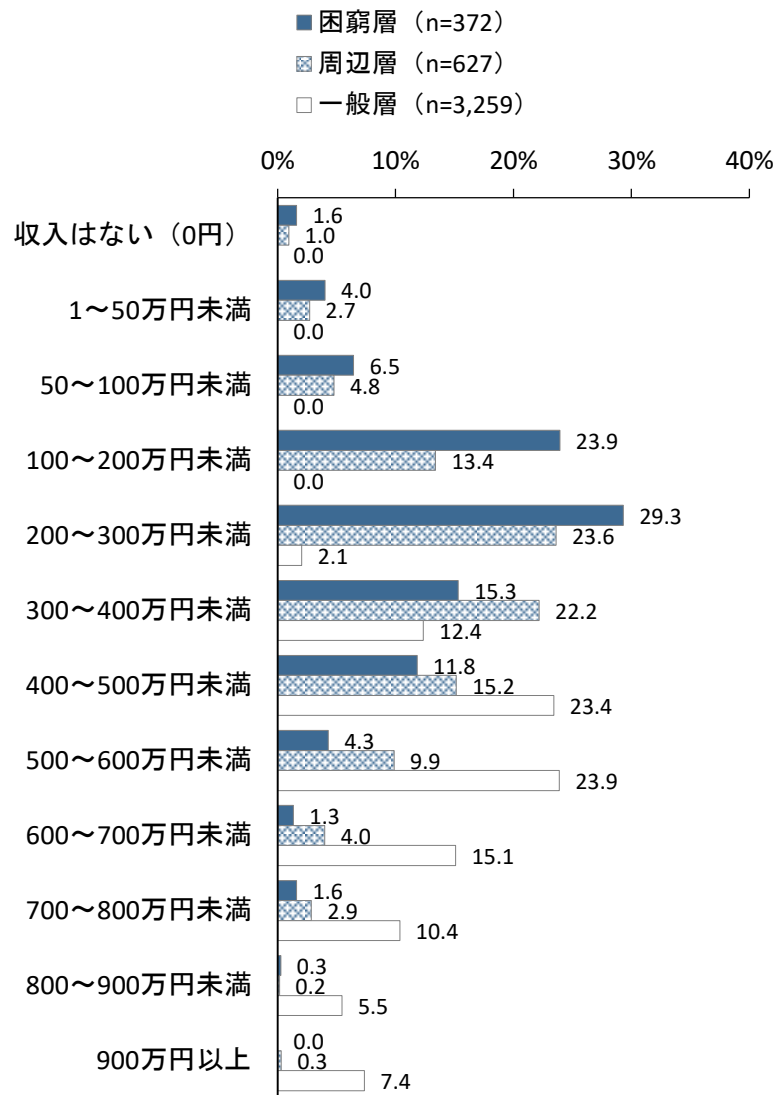
子どものきょうだいの人数について、困窮層では「2人」が42.5%で最も高く、次いで「3人」が18.8%、「4人以上」が18.8%と続いており、「4人以上」では、周辺層(8.8%)、一般層(4.4%)に比べ割合が高くなっています。



## ②世帯年収

世帯年収について、困窮層では「200～300万円未満」が29.3%で最も高く、次いで「100～200万円未満」が23.9%、「300～400万円未満」が15.3%と続いています。

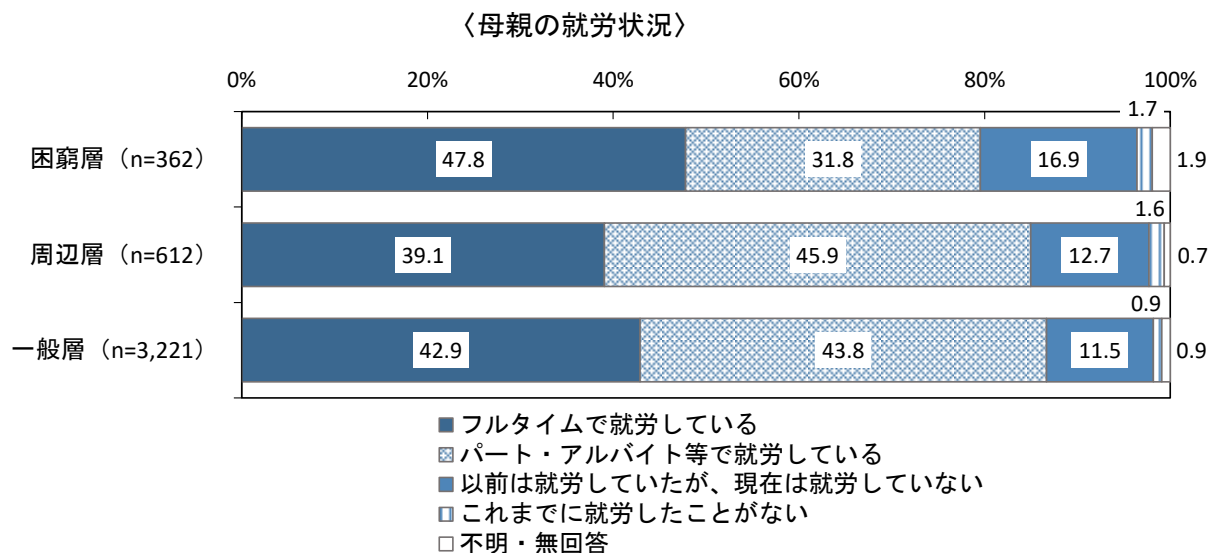
〈世帯年収〉



## (2) 保護者の就労状況について

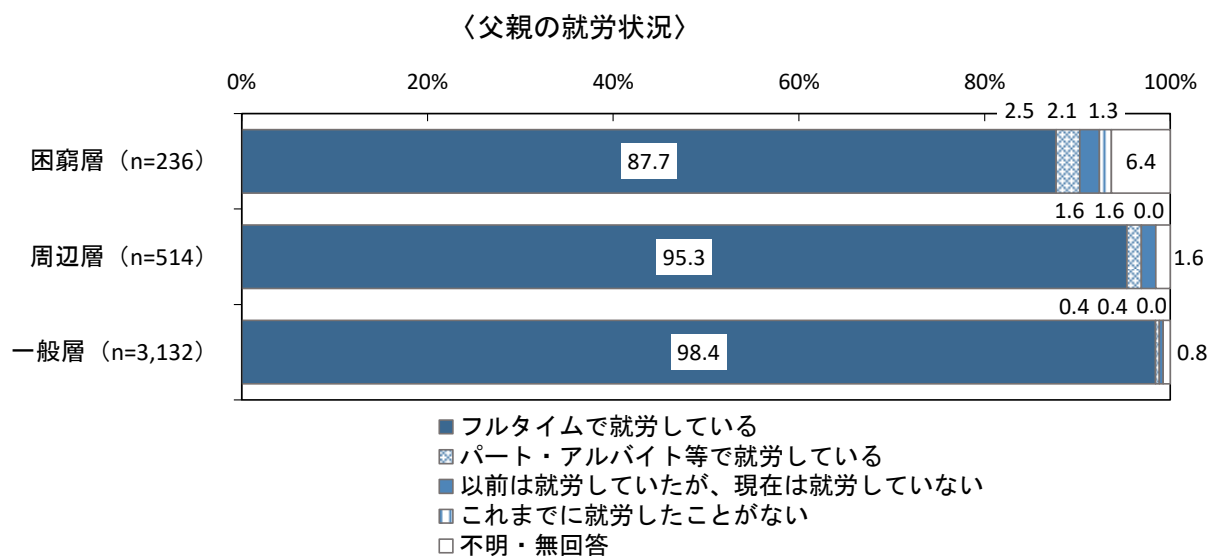
### ① 母親の就労状況

母親の就労状況について、困窮層では「フルタイムで就労している」が47.8%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労している」が31.8%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が16.9%と続いており、就労していない人（「以前は就労していたが、現在は就労していない」と「これまでに就労したことがない」の合計）が18.6%で、周辺層（14.3%）、一般層（12.4%）に比べ割合が高くなっています。



### ② 父親の就労状況

父親の就労状況について、困窮層では「フルタイムで就労している」が87.7%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労している」が2.5%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が2.1%と続いています。



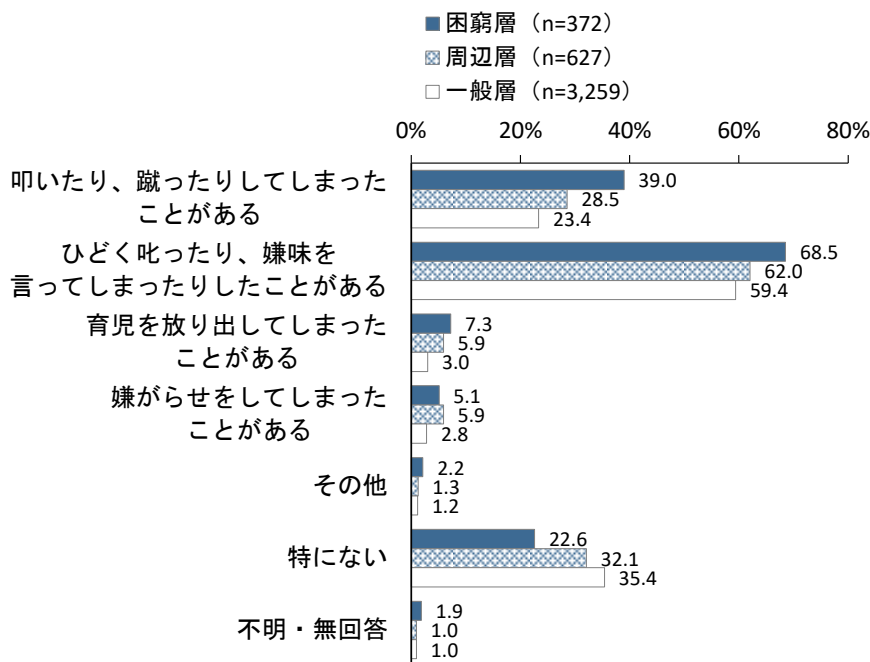


### (3) 子どもの育ちをめぐる環境について

#### ①子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまった経験

子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまった経験について、困窮層では「ひどく叱ったり、嫌味を言ってしまったりしたことがある」が68.5%で最も高く、次いで「叩いたり、蹴ったりしてしまったりしたことがある」が39.0%、「特にない」が22.6%と続いており、「叩いたり、蹴ったりしてしまったりしたことがある」、「ひどく叱ったり、嫌味を言ってしまったりしたことがある」、「育児を放り出してしまったりしたことがある」では困窮層が最も高く、次いで周辺層、一般層の順となっています。

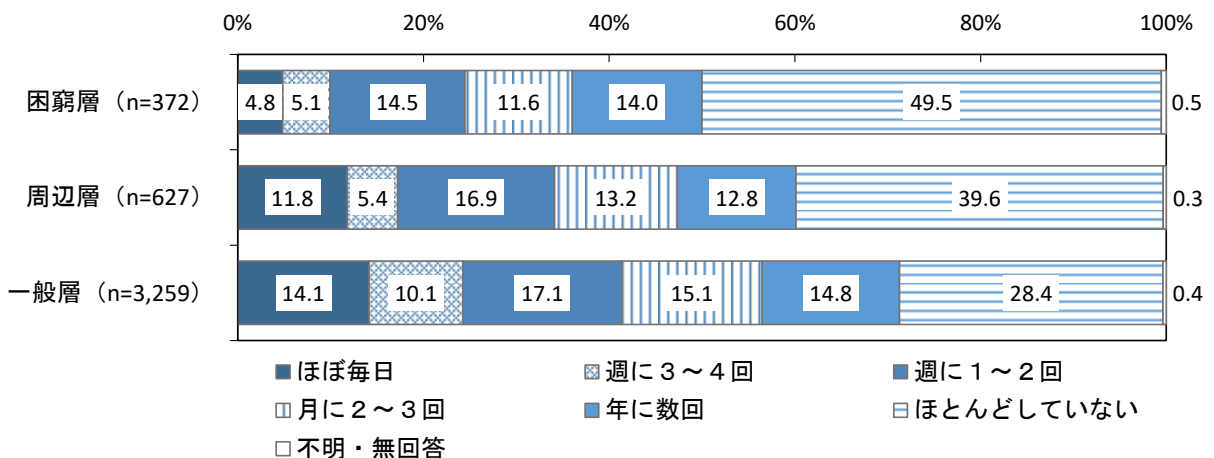
〈子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまったりした経験〉



#### ②家庭での読書活動の実践状況

家庭での読書活動の実践状況について、困窮層では「ほとんどしていない」が49.5%で最も高く、次いで「週に1～2回」が14.5%、「年に数回」が14.0%と続いており、「ほとんどしていない」では、周辺層（39.6%）、一般層（28.4%）に比べ割合が高くなっています。

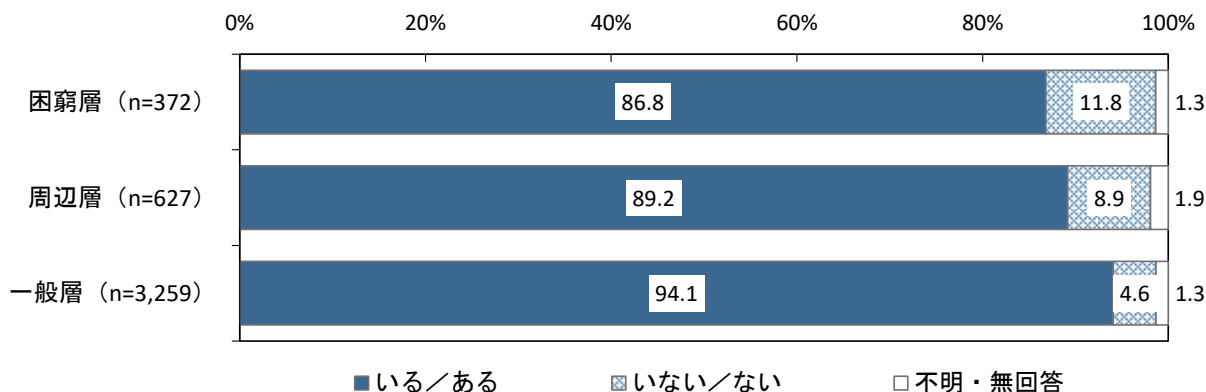
〈家庭での読書活動の実践状況〉



### ③相談先

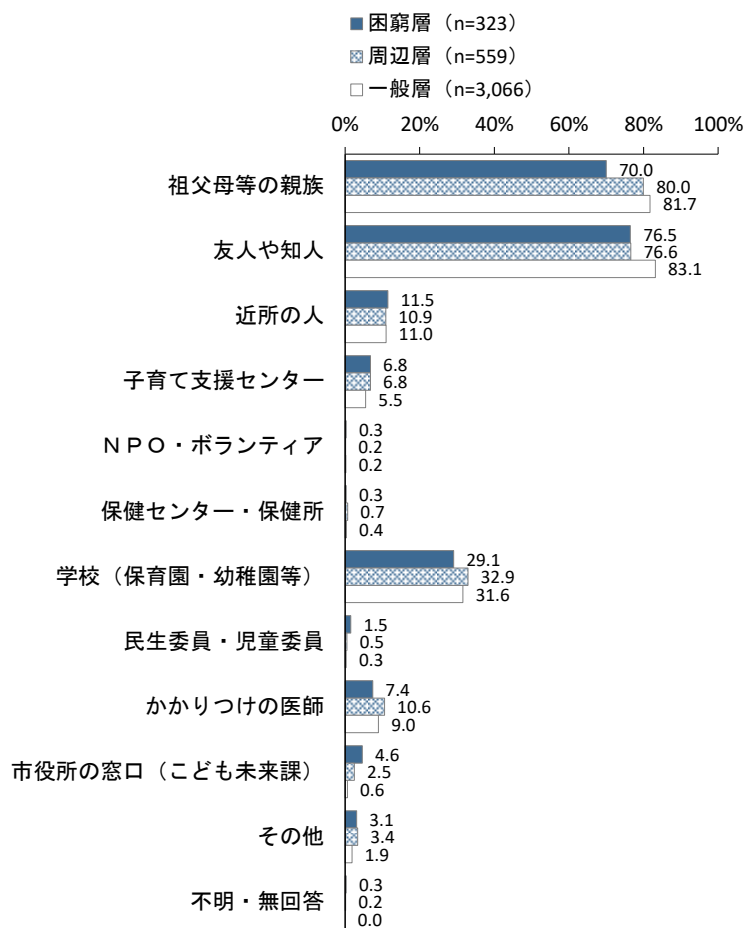
子育てについて気軽に相談できる人や場所があるかどうかについて、困窮層では「いる／ある」が 86.8%、「いない／ない」が 11.8%となっており、「いない／ない」では、周辺層（8.9%）、一般層（4.6%）に比べ割合が高くなっています。

〈子育てについて気軽に相談できる人や場所があるかどうか〉



子育てに関して気軽に相談できる先について、困窮層では「友人や知人」が 76.5%で最も高く、次いで「祖父母等の親族」が 70.0%、「学校（保育園・幼稚園等）」が 29.1%と続いており、「近所の人」、「民生委員・児童委員」、「市役所の窓口（こども未来課）」については周辺層、一般層に比べ割合が高くなっています。

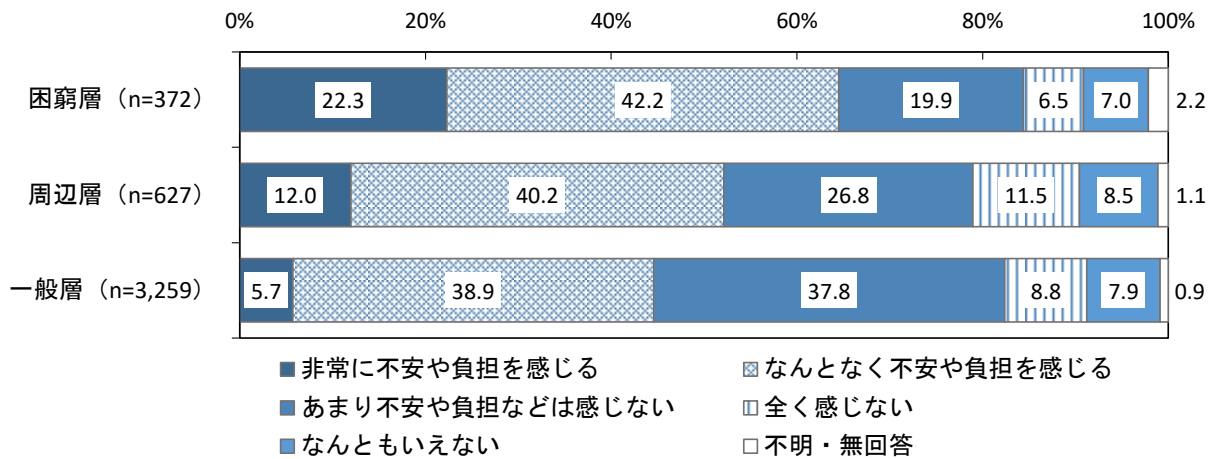
〈子育てに関して気軽に相談できる先〉



#### ④子育てに関する不安感・負担感

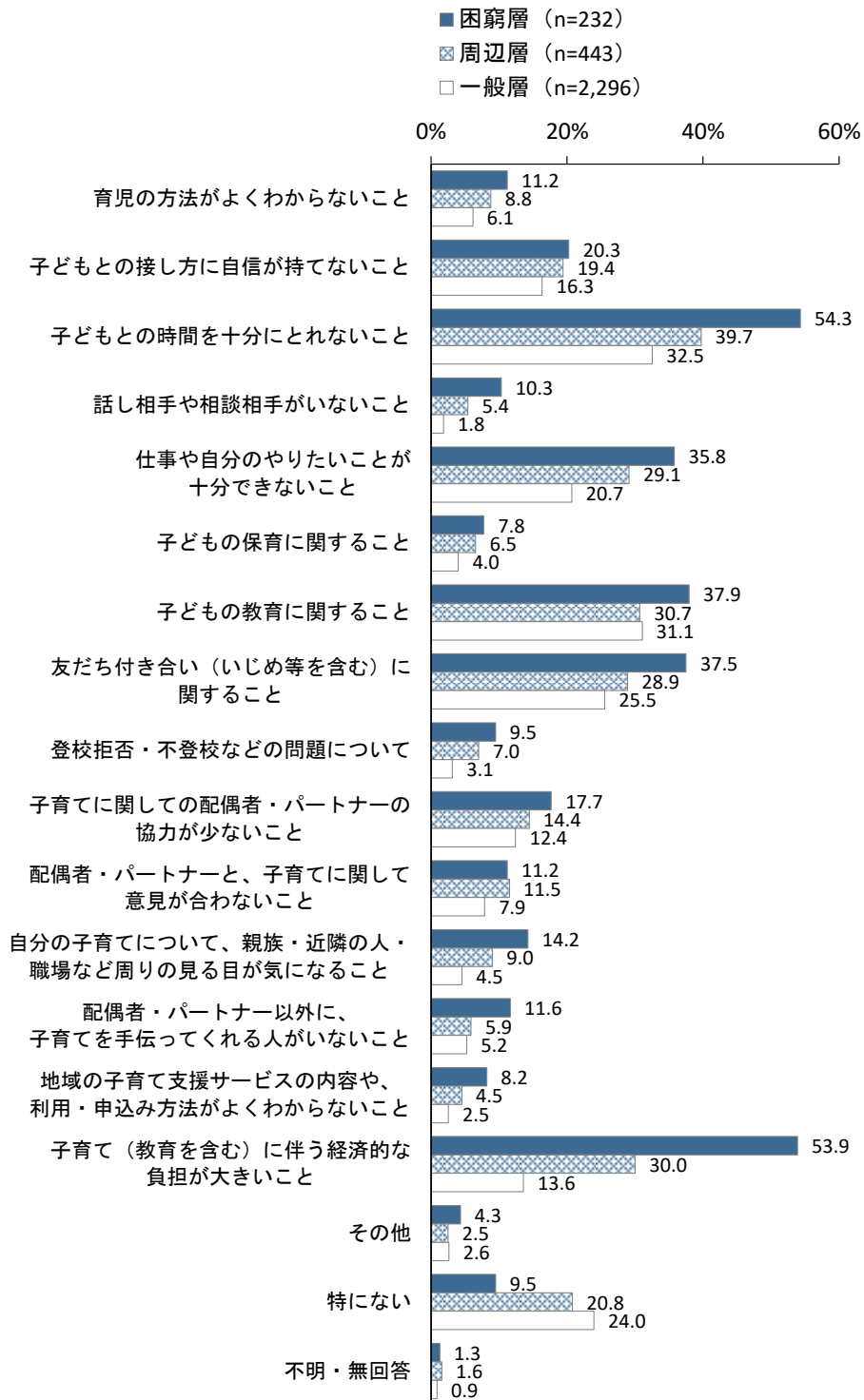
子育てに関する不安感・負担感について、困窮層では「なんとなく不安や負担を感じる」が42.2%で最も高く、次いで「非常に不安や負担を感じる」が22.3%、「あまり不安や負担などは感じない」が19.9%と続いており、『不安や負担を感じる』（「非常に不安や負担を感じる」と「なんとなく不安や負担を感じる」の合計）は64.5%で、周辺層（52.2%）、一般層（44.6%）に比べ割合が高くなっています。

〈子育てに関する不安感・負担感〉



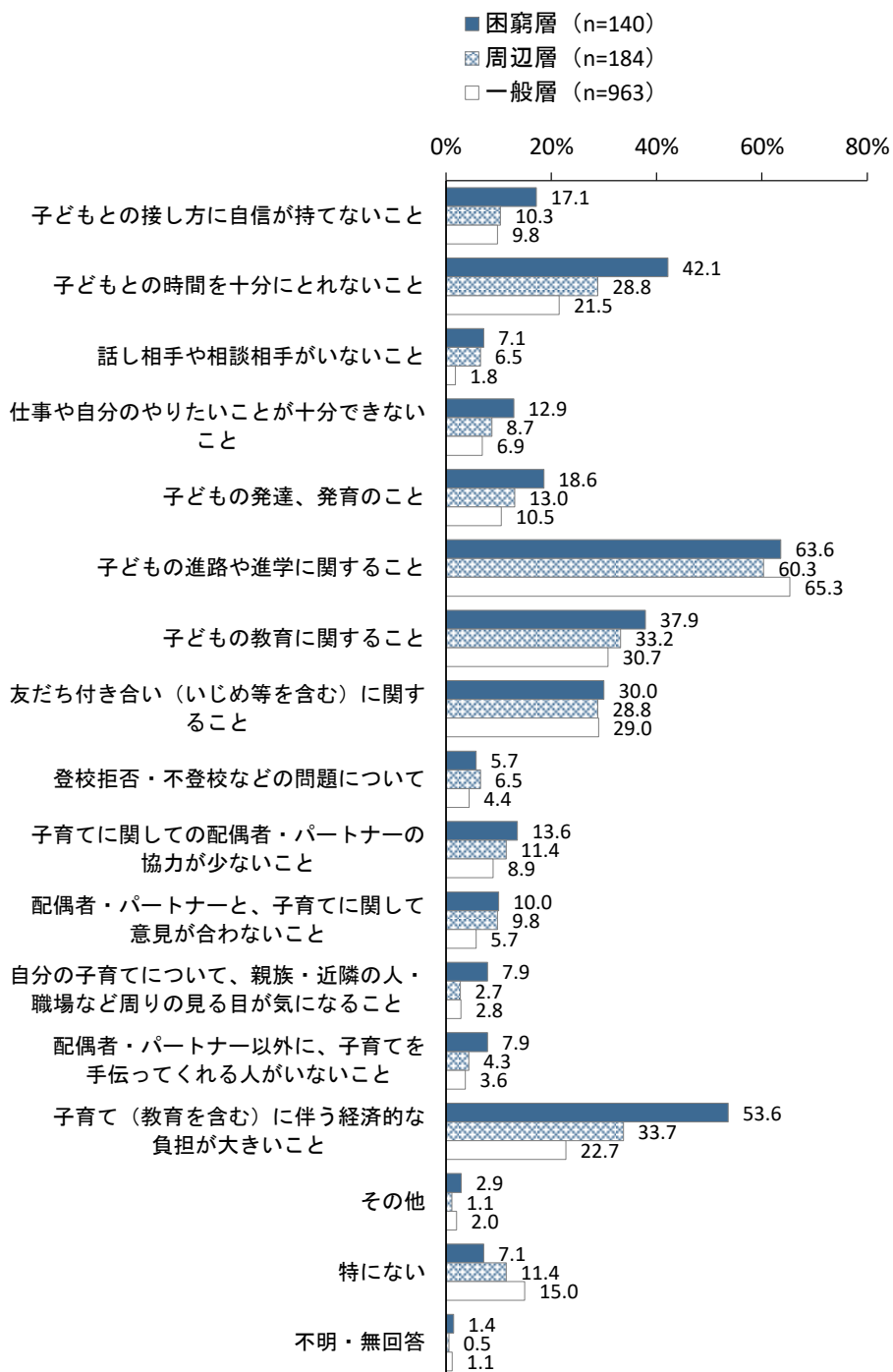
就学前児童・小学生保護者の子育てに関して悩んでいること、不安に思うこと、気になることについて、困窮層では「子どもとの時間を十分にとれないこと」が 54.3%で最も高く、次いで「子育て（教育を含む）に伴う経済的な負担が大きいこと」が 53.9%、「子どもの教育に関すること」が 37.9%と続いており、「子どもの教育に関すること」、「配偶者・パートナーと、子育てに関して意見が合わないこと」、「その他」、「特にない」以外の全ての項目で困窮層、周辺層、一般層の順で高くなっており、「子育て（教育を含む）に伴う経済的な負担が大きいこと」では、周辺層、一般層に比べ著しく高くなっています。

〈子育てに関して悩んでいること、不安に思うこと、気になること（就学前児童・小学生）〉



中学生保護者の子育てに関して悩んでいること、不安に思うこと、気になることについて、困窮層では「子どもの進路や進学に関すること」が63.6%で最も高く、次いで「子育て（教育を含む）に伴う経済的な負担が大きいこと」が53.6%、「子どもとの時間を十分にとれないこと」が42.1%と続いており、「子どもの進路や進学に関すること」、「友だち付き合い（いじめ等を含む）に関すること」、「登校拒否・不登校などの問題について」、「自分の子育てについて、親族・近隣の人・職場など周りの見目が気になること」、「その他」、「特にない」以外の全ての項目で困窮層、周辺層、一般層の順で高くなっています。

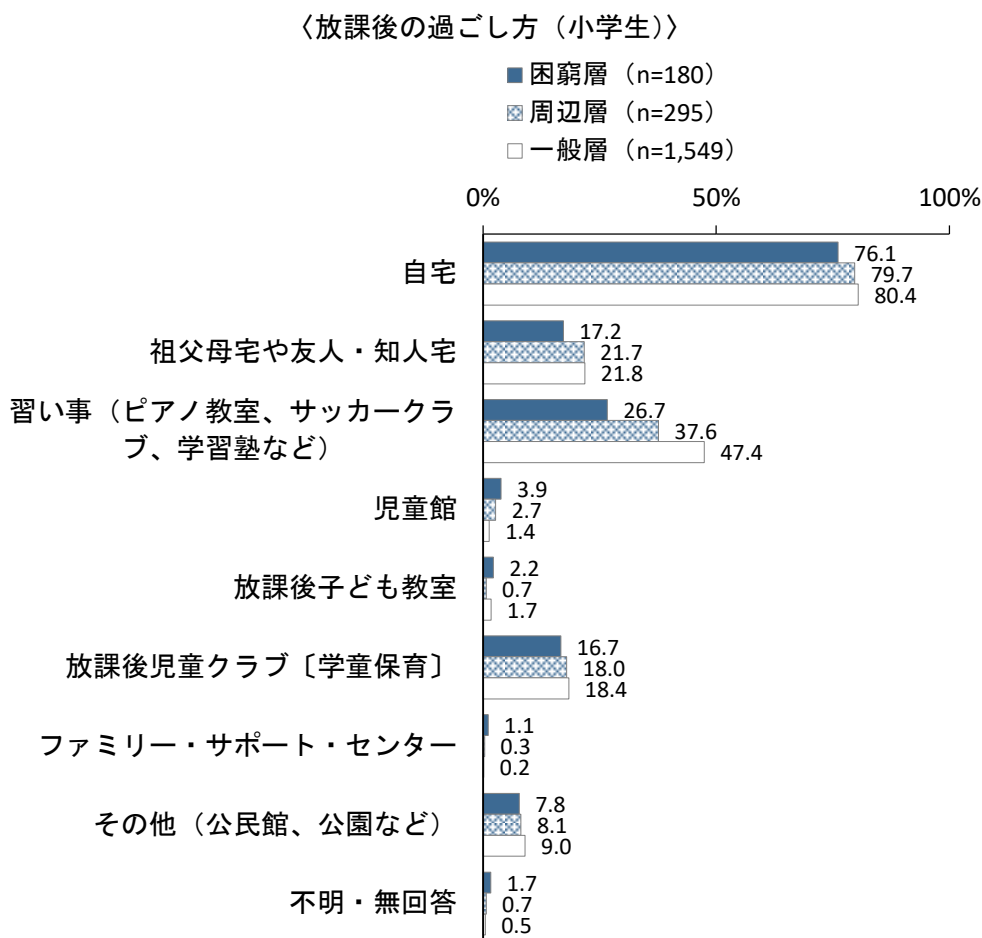
〈子育てに関して悩んでいること、不安に思うこと、気になること（中学生）〉



#### (4) 放課後の過ごし方について

##### ①放課後の過ごし方（小学生）

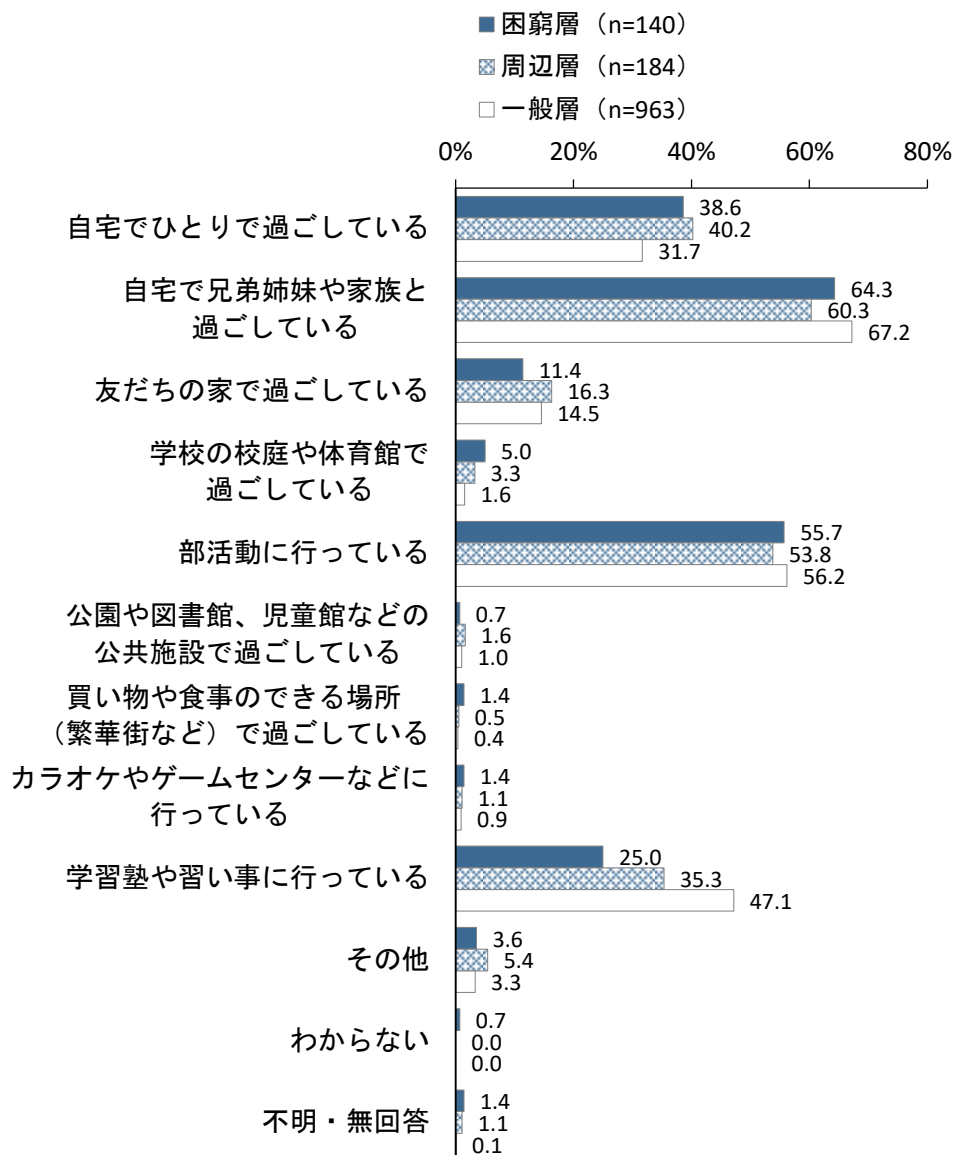
小学生の放課後の過ごし方について、困窮層では「自宅」が76.1%で最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が26.7%、「祖父母宅や友人・知人宅」が17.2%と続いており、「児童館」、「放課後子ども教室」、「ファミリー・サポート・センター」で、周辺層、一般層に比べ割合が高く、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」では、周辺層（37.6%）、一般層（47.4%）に比べ低く、一般層との差（20.7ポイント）が最も大きくなっています。



## ②放課後の過ごし方（中学生）

中学生の放課後の過ごし方について、困窮層では「自宅で兄弟姉妹や家族と過ごしている」が64.3%で最も高く、次いで「部活動に行っている」が55.7%、「自宅でひとりで過ごしている」が38.6%と続いており、「学習塾や習い事に行っている」（25.0%）では、周辺層（35.3%）、一般層（47.1%）に比べ割合が低く、一般層との差（22.1ポイント）が最も大きくなっています。

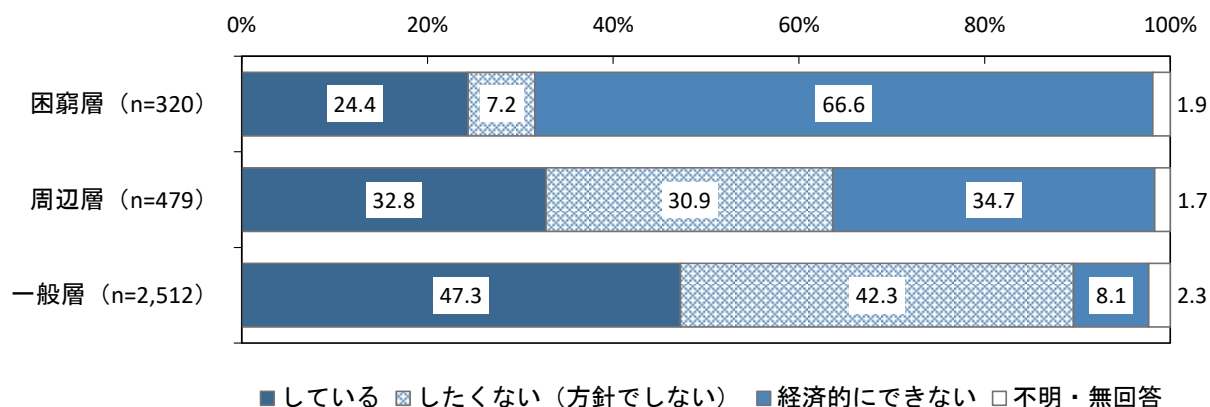
〈放課後の過ごし方（中学生）〉



### ③学習塾について

小学生・中学生について、学習塾に通わせて（または家庭教師に来てもらって）いるかどうかについては、困窮層では「経済的にできない」が66.6%で最も高く、次いで「している」が24.4%、「したくない（方針でしない）」が7.2%と続いています。

〈子どもの体験の有無 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）（小学生・中学生）〉



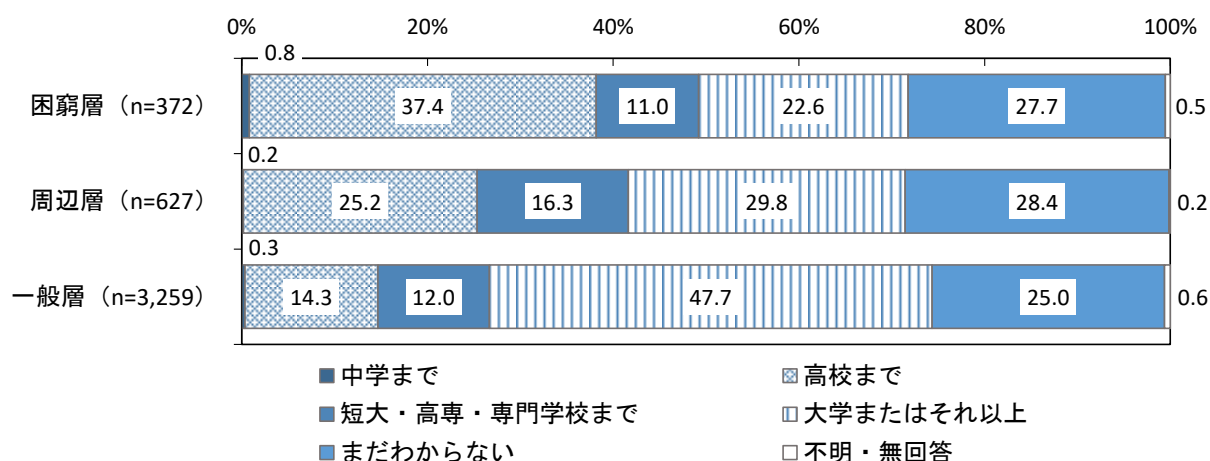
## (5) 子どもの将来について

### ①子どもに対する進学意向

子どもに対する進学意向について、困窮層では「高校まで」が37.4%で最も高く、次いで「大学またはそれ以上」が22.6%、「まだわからない」が27.7%と続いており、「高校まで」では、周辺層(25.2%)、一般層(14.3%)に比べ割合が高くなっています。

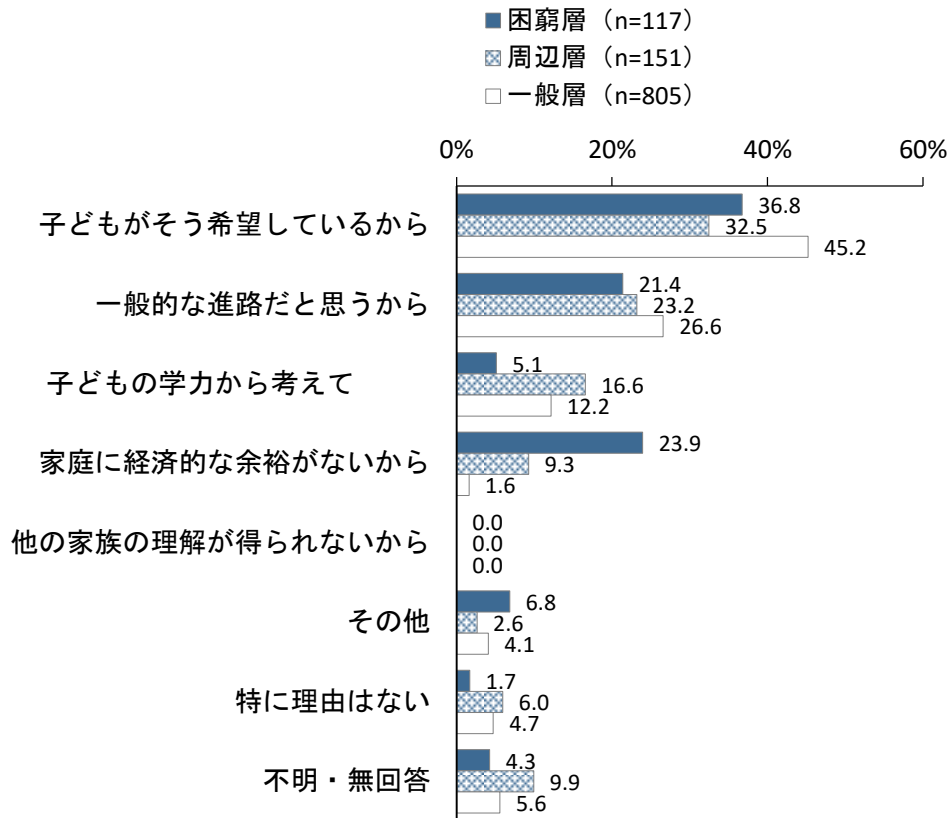
また、中学生の保護者の子どもに対する進学意向の理由について、困窮層では「子どもがそう希望しているから」が36.8%で最も高く、次いで「家庭に経済的な余裕がないから」が23.9%、「一般的な進路だと思うから」が21.4%と続いており、「家庭に経済的な余裕がないから」では、周辺層(9.3%)、一般層(1.6%)に比べ割合が高くなっています。

〈子どもに対する進学意向〉





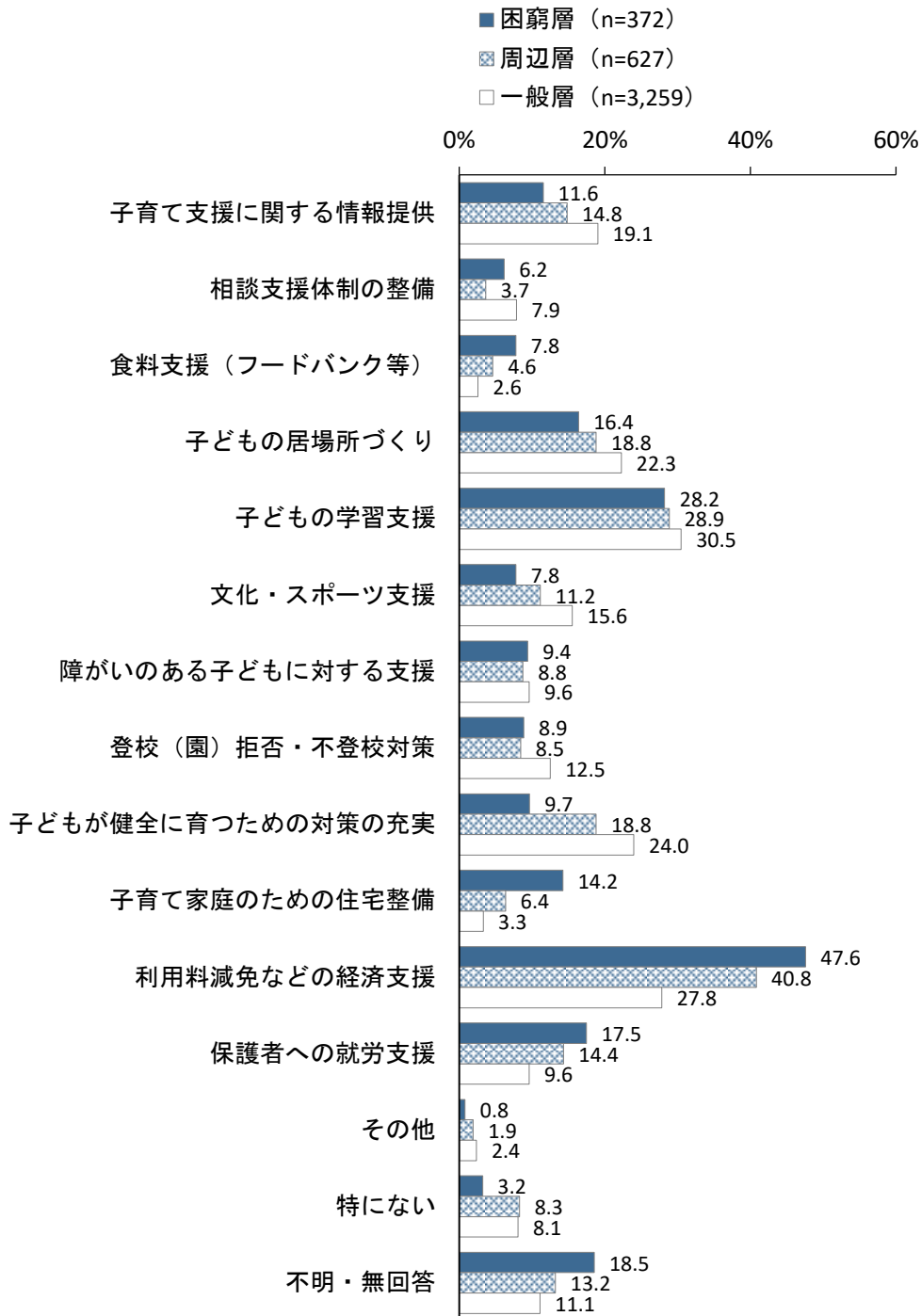
〈子どもに対する進学意向の理由（中学生）〉



## (6) 必要だと思う子育ての支援策

必要だと思う子育ての支援策について、困窮層では「利用料減免などの経済支援」が47.6%で最も高く、次いで「子どもの学習支援」が28.2%、「保護者への就労支援」が17.5%と続いており、「食料支援（フードバンク等）」、「子育て家庭のための住宅整備」、「利用料減免などの経済支援」、「保護者への就労支援」では困窮層が最も高く、次いで周辺層、一般層の順となっています。

〈必要だと思う子育ての支援策〉



## (7) 伊賀市への子育て支援の評価

### ① 地域の子育てのしやすさ

地域の子育てのしやすさについて、困窮層では「どちらかといえば子育てしやすい」が 57.3% で最も高く、次いで「どちらかといえば子育てしづらい」が 25.5%、「とても子育てしやすい」が 7.8%と続いており、『子育てしづらい』（「どちらかといえば子育てしづらい」と「とても子育てしづらい」の合計）が 32.8%で、周辺層（21.7%）、一般層（17.5%）に比べ割合が高くなっています。

